

# 幼 兒 教 育

第 十 三 卷 十 一 月 號 第 十 一 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內  
日 本 幼 稚 園 協 會

**最新刊**  
 聖美幼稚園長 内山憲尚先生著  
 東京人形劇研究所長 内山憲尚先生著  
 ▲國策菊判 ▲定價一圓四十錢  
 ▲三百四十頁 ▲送料十六錢

# 紙芝居精義

幼児の保育には、眼から入れる紙芝居の利用がきんに毎日の保育を助けてくれることである。本書は、保母さんの爲には、特に繪本から簡單に作るやり方まで書かれてある最も親切な本です。各幼稚園に二冊は必備の良書です。

**容内**  
 ▲紙芝居の歴史  
 ▲紙芝居業者の組織と内容  
 ▲紙芝居の原理  
 ▲紙芝居の教育的価値と利用法  
 ▲紙芝居の製作  
 ▲例話二篇

版八  
**幼稚園保育法真諦**  
 東京女高師教授 倉橋惣三先生著  
 四六判二九頁 價二圓八十錢 送料十六錢

版十二  
**幼稚園の理論及實際**  
 奈良女高師教授附屬幼稚園主事 森川正雄先生著  
 菊判三一八頁 價三圓五十錢 送料十六錢

版五  
**日本幼稚園史**  
 東京女高師教授 倉橋惣三先生・新庄よしこ先生共著  
 菊判四六〇頁 價三圓八十錢 送料十八錢

版十  
**保母教育學**  
 奈良女高師教授附屬幼稚園主事 森川正雄先生著  
 菊判二八一頁 價三圓 送料十六錢

版五  
**幼稚園保育の諸問題**  
 東京女高師附小主事 堀七藏先生著  
 四六判四三〇頁 價二圓八十錢 送料十六錢

版八  
**幼稚園教育法**  
 奈良女高師教授附屬幼稚園主事 森川正雄先生著  
 菊判一七五頁 價二圓二十錢 送料十二錢

版五  
**兒童話の話方と實例**  
 東京女高師教授 倉橋惣三先生序・内山憲尚先生著  
 菊判三八〇頁 價二圓八十錢 送料十六錢

版八  
**幼稚園の經營**  
 奈良女高師教授附屬幼稚園主事 森川正雄先生著  
 四六判三八八頁 價三圓 送料十六錢

東大 京阪 東洋圖書株式會社發兌

東京市神田區保町一丁目七六番地【替振】東一〇三〇七番  
 大阪市南區安堂寺一丁目二番八地【替振】大阪三九五六番

法政大學 教授 城戸幡太郎先生著 (最新刊)

菊判二五〇頁 定價一圓八十錢  
布裝上製函入 送料十六錢

# 幼兒教育論



興亞日本の建設發展のために、輝ける本書を全保育人に贈る。健全なる國民の育成こそは、幼兒の保育よりスタートせねばならぬ。強く正しく導くために、幼兒教育の新組織を樹立し全問題を解明した最も科學的な幼兒教育論である。

## — 網 大 次 目 —

- I 就學前教育の重要性 ○我等は何をなすべきか ○幼兒教育の歴史と問題 ○幼兒教育と國民教育 ○幼兒生活と保育者
- II 社會事業と保育事業 ○フレールベルとオーウエン ○社會事業と兒童問題 ○貧困兒童の問題 ○農業期託兒所の問題 ○農村における保育事業の託兒所と母親學校
- III 保母の立場と致養 ○利用厚生教育 ○保母は子供に何を求むべきか ○子供は保母に何を求めてゐるか ○保母の致養 ○保母養成の問題
- IV 幼兒教育の研究法 ○學問研究の態度 ○兒童心理學の發達 ○保育問題の解決法 ○自由遊びについての調査 ○遊具と幼兒の社會性
- V 幼兒生活の指導法 ○幼兒指導の態度 ○幼兒と言葉の訓練 ○子供の問と答 ○子供の嘘について ○子供の生活指導 ○兩親教育の問題

## 生活技術と教育文化

法政大學教授 城戸幡太郎著 至一・八〇 千一・一六  
四六判 二五三頁

教育は國民に國民としての生活技術を教へる技術である」と喝破して教育の本道を明かにす。

## 兒童心理學

東京帝大講師 青木誠四郎著 至三・五〇 千二・二四  
菊判 四四〇頁

教育實踐上に直ちに活用し得る兒童心理學を明快なる理論と整然たる體系の下に論述す。

## 兒童生活と學習心理

東京文理大講師 波多野完治著 至二・八〇 千一・一六  
菊判 三九〇頁

著者の全心理學的知識を總動員して兒童及教育實際上の諸問題に解決を與へたもの。

館文賢

東京電話 振替  
神田區 東  
田段五  
一四八  
一三〇  
ツツ六  
橋六

# 幼兒童話及幼兒唱歌募集

—フレイベル賞による懸賞募集—

先年株式會社フレイベル館高市社長より同館創業三十周年記念として、保育資金一千五百圓を全國保育界に對して提供せられ、その使途につき本會に委託せられましたことは度々本誌上に御報告申上げた通りであります。よつて本會はそのため特に實行委員諸氏を御委嘱し、協議の上、童話手技等の懸賞募集を行ひ來り、いづれも好成績を舉げましたことも御承知頂いてゐるご存じます。今回は更に募集範圍を擴大して、幼稚園の方々の外、小學校教育御關係の方々にも御應募を乞ふことゝしました。廣く多數の優秀作品を得たいと期待して居ります。左の規定により盛に御應募下さるやう願ひます。

## (一) 童話募集規定

應募作は幼兒に適する童話たること。

主題、内容、長短は隨意。

幼稚園、託兒所保母諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

原稿紙にペン書のこと。

應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)童話募集掛宛のこと。

締切 昭和十五年二月末日

發表 昭和十五年六月一日日本會發行之「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十音順)

小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏 久留島武彦氏

原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會童話募集掛宛お問合せ下さい。

## (二) 幼兒唱歌募集規定

應募作は幼兒にうたはせるに適するものたること。

主題、内容、長短は隨意。

幼稚園、託兒所保姆諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

原稿紙にペン書のこと。

應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)幼兒唱歌募集掛宛のこと。

締切 昭和十五年二月末日

發表 昭和十五年六月一日日本會發行之「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十音順)

小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏 久留島武彦氏

原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會幼兒唱歌募集掛宛お問合せ下さい。

昭和十四年十一月

東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

(最新刊)

子供の家學園々長 高島 巖 著

法學博士・男爵 穂積 重遠 序

# 歌ふ

この書は「歌はしてよ」や「辻占賣り」など不幸な少女達を收容し、保護更生に献身する高島先生の涙と力の第一回報告書である。不幸な彼等子供たちは、もう被虐待兒童ではない。太陽の子だ！ 日本の子だ！

## 虐められる 子の更生報告書

厚生省  
児童課長

伊藤 清

非常時下、児童保護の最も重要視せられねばならぬ  
秋 本書の上梓を見たことは、局に當るものとして、  
誠に喜びに堪へない。社會事業に携る方々に特に一讀を薦む。

# 供 たち

四六判 三三〇頁

價 一・三〇  
(送・一〇)

東京芝田村町一ノ三  
振替東京二九九三

萬里閣

# 幼兒童話及幼兒唱歌募集

—フレイベル賞による懸賞募集—

先年株式會社フレイベル館高市社長より同館創業三十周年記念として、保育資金一千五百圓を全國保育界に對して提供せられ、その使途につき本會に委託せられましたことは度々本誌上に御報告申上げた通りであります。よつて本會はそのため特に實行委員諸氏を御委嘱し、協議の上、童話手技等の懸賞募集を行ひ來り、いづれも好成績を舉げましたことも御承知頂いてゐるご存じます。今回は更に募集範圍を擴大して、幼稚園の方々の外、小學校教育御關係の方々にも御應募を乞ふことゝしました。廣く多數の優秀作品を得たいと期待して居ります。左の規定により盛に御應募下さるやう願ひます。

## (一) 童話募集規定

應募作は幼兒に適する童話たること。

主題、内容、長短は隨意。

幼稚園、託兒所保母諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

原稿紙にペン書のこと。

應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)童話募集掛宛のこと。

締切 昭和十五年二月末日

發表 昭和十五年六月一日日本會發行之「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十音順)

小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏 久留島武彦氏

原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會童話募集掛宛お問合せ下さい。

## (二) 幼兒唱歌募集規定

應募作は幼兒にうたはせるに適するものたること。

主題、内容、長短は隨意。

幼稚園、託兒所保姆諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

原稿紙にペン書のこと。

應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)幼兒唱歌募集掛宛のこと。

締切 昭和十五年二月末日

發表 昭和十五年六月一日日本會發行之「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十音順)

小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏 久留島武彦氏

原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會幼兒唱歌募集掛宛お問合せ下さい。

昭和十四年十一月

東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會



(最新刊)

子供の家學園々長 高島 巖 著

法學博士・男爵 穂積 重遠 序

この書は「歌はしてよ」や「辻占賣り」など不幸な少女達を收容し、保護更生に献身する高島先生の涙と力の第一回報告書である。不幸な彼等子供たちは、もう被虐待兒童ではない。太陽の子だ！ 日本の子だ！

# 歌ふ

## 虐められる 子の更生報告書

厚生省  
児童課長

伊藤

清

非常時下、児童保護の最も重要視せられねばならぬ  
秋 本書の上梓を見たことは、局に當るものとして、  
誠に喜びに堪へない。社會事業に携る方々に特に一讀を薦む。

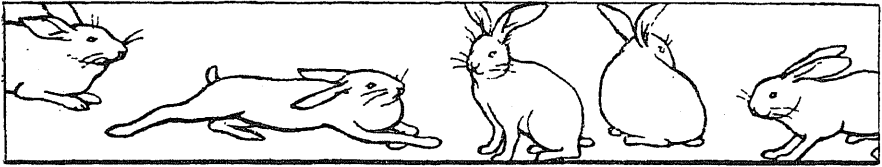
四六判 三三〇頁

價 一・三〇  
(送・一〇)

# 供 たち

東京・芝・田村町一ノ三  
振替東京二九九三

萬里閣



第三十九卷 幼 兒 教 育 第 十 一 號

目 次

扉

保育實際家の責さ……………倉橋惣三(一)

新支那の教育復興を視る(一)……………倉澤剛(四)

秋晴

幼稚園の運動會……………佐々木等(六)

幼稚園に於ける運動會と遠足……………土川五郎(八)

運動會と遠足……………蒔田ソヨ(三)

私共の運動會と遠足……………高橋タツ(六)

觀察 紅葉と落葉……………堀七藏(三)

資料 殘花聚園(十)……………石川謙(四)

椿の兵隊さん(風土記から)……………石井庄司(六)

橋本よしぢ女史……………倉橋生(三)

幼稚園と尋常小學校との連絡に関する資料調査(下)……………東京市保育會(三)

本園の綜合大運動遊具……………荒木嘉弘(五)

仙臺二日……………倉橋生(四)

こまばづかひ……………小島その(四)

雜報

全國兒童保護大會……………(翌)

ハイデュー——ヨハンナ・スピリ原作……………津田芳雄譯(哭)

倉橋惣三編 (新刊)

# 新體幼稚園唱歌

四六倍判  
定價(送料共)

金七拾錢

目 日本的旗日の丸の旗  
次 道 ぶ し ん  
倉橋惣三 作詞  
井上橋惣武士 作曲

うびんやさん  
渡し場の船頭さん  
火消しのなちさん  
倉橋惣三 作詞  
弘田龍太郎 作曲  
倉橋惣三 作詞  
中山晋平 作曲  
倉橋惣三 作詞  
小林つや江 作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

# 幼稚園新唱歌

四六倍判  
定價(送料共)

金五拾錢

目 だ か  
次 雨 小松村耕よ 作詞  
小松山米輔 作曲  
杉山耕輔 作詞  
小松耕輔 作曲

ほ た る  
ふ し ん 場  
青山綾子 作詞  
小松耕輔 作曲  
青松耕輔 作曲  
小原銀 作詞  
小松耕輔 作曲

〇この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるることを期待してゐる。

# 幼 兒 の 教 育

昭 和 十 四 年 十 一 月



この子は生活畫家である。いつも、日常の生活經驗を、そのまゝ立派な繪にする。その豊富な自由畫帖の中から拾つた此の繪の裏には、ユービシ、ラ イレテ、カヘルトコロ、と、口繪の線とは似つかはぬ、あぶなつかしい筆つきで書いてあつた。

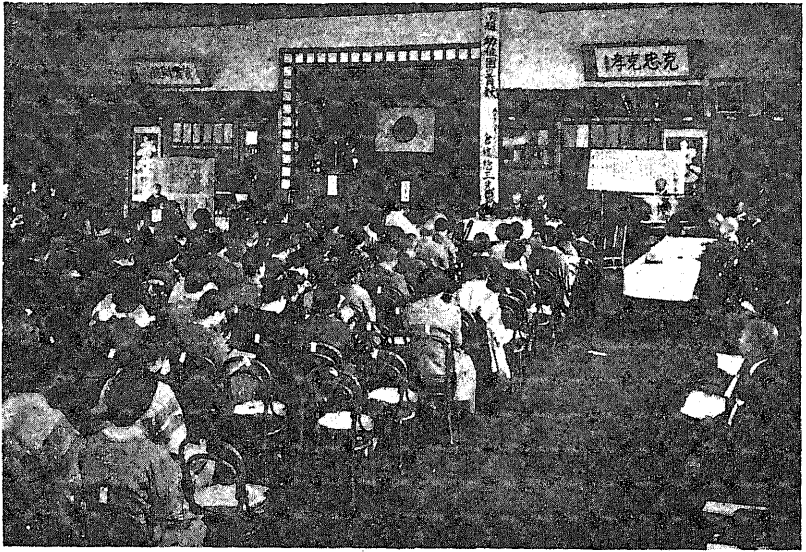
郵便はおとなの世界である。おかあさんに頼まれて、一枚の葉書を、自分の背ほどのポストに投函して歸る今の氣持は、まさに、おとなの世界に一役を演じたる、大得意、大滿悦である。

—— いまし、意氣揚々として、タバコ屋の前を、おとなの町を、潮歩して歸る足つき、手のふりかた、聳えた肩、つんとした頭、そして、わき目もふらずに正面をきつてゆく横顔が、なんとよくその心持を浮き上がらせてゐることか。

—— これは、どんな巧みな文章でも、斯うはあらはし得ない子どもの心理である。あらはせないのではない。常人しか知らない子どもの心である。

幼兒の生活畫は、客觀描寫でないところに、眞が迫る。

(倉橋生)



全園幼稚園關係大會會場

# 保育實際家の貴い

倉 橋 惣 三

貴いのは、保育の實際に當る人々こそである。いくら保育の必要論が論ぜられても、いかに保育研究が研究せられても、保育實際家の實活動がなかつたら、それは陣太鼓の響き、紙上明細圖に過ぎない。保育實際家、すなはち保姆諸君のみが、子どもにぢかに觸れるのである。子どもも一つしよに遊ぶのである。子どもを手を以て世話をし導くのである。その他の者は、その後ろに居り、傍に居り、時に上に居るにしても、間接者である。その熱心も、周到も、所詮は保姆諸君を通してのみ、子どもに達し得るのである。

だから保育論者も、保育學者も、苟も敬意を拂はないさいふのではない。その人々は、保育實際家に働き場所を設け、その働き方に就て考慮し工夫する。その意味に於て、保育實際家を動かしたり、導いたりするほどの有力なる存在である。そこで、謙遜柔順なる保姆諸君自ら、その指圖下で教導下ごにのみ、自らの位置を意識するのが普通である位である。しかも、そのうるはしき秩序ご自省ごの裡に、自ら光る輝かしさは、實際家の實際性そのものである。心づいてその輝きを凝めるものには、眩ゆさに立ちつくすばかりである。そして明確に認識させられるごは、保育實際家の力によるごなぐして、一日も保育の出来ないさいふ、今更言ふまでもない事實である。

斯う書いて來て、われらはなにも、保姆諸君に餘計の讚辭を弄したり、その功をおだて上げたりしやうごするのではない。それごころか、その保育知識、保育技能に對しては、讚辭の反對のものを呈し、おだての裏のものを感じたりさへさせられるごのあるのを直言する。たゞ、假りにこんな深い保育知識、細かい保育技能にしても、保育實際家を俟たずしては、いやはや、ごごもするごの出来ないごを、その直言ご共に自認するのである。もつご端的にいへば、自分に

出来ないから、出来る人にこそ直言もするのである。

○ 保育實際家こそ貴い。しかも、その貴さは、その人にあるさいふよりもその「實際」にあるのであることは、その人ごしでも、外からその貴さを思ふものごしても、混同してならない要點である。それを聊か鋭く言ひ換ゆれば、「實際」を失へる保育實際家は、それが保育實際家の位置にある人であつても、必ずしも貴しきすることは出来ない。それは、當然確把すべき實際を、當然確把し得べき實際を、怠りなまけて失つてゐるのだからである。

但し、保育實際家をして、その貴い「實際」を失はしめるものは、その人の倦怠によるのみに止まらない。その折角くの實際確把の能力をして、充分に發揮せしめない諸般の外部事情によることも稀でない。その場合、その責任は、少くも部分的に、保育實際家以外にあるのであつて、保育實際家にまつては、まことに氣の毒の至りである。が、しかし、保育實際家の貴き所以がその「實際」にこそ存するさいふ一般的條理を變へることは出来ない。

○ 之れを逆にしていへば、その人の他の價值によることなしに、實際保育者の「實際」は貴いのである。之れを更に精しく言へば、その人の他の價值は、實際保育者としてのその人の價值に加ふるところがあるではあらうが、反對に、その人に他の價值のないところが、實際保育者としてのその人の價值を減ずることにしなければならないさいふことになる。それ程に、その「實際」に絶對の貴さがあるのである。

すなはち、その「實際」の貴さは、その人の教養の程度を問はない。その人の世故の經驗を問はない。況んや、その人の社會的位置を問はない。それどころか、世の手腕に勝れて「實際」の貴さに缺けてゐる人さへ無いさいへまい。學の頭腦に秀で、「實際」の貴さに薄い人さへ無いさいへまい。さいふは、「實際」のみが何より貴いさいいつてゐるのではない。實際保育家の貴さは、一つにその「實際」にこそ存することを極言してゐるのである。すなはち、われらは、その人が若からうが、位置が低からうが、失禮ながら極くの新案であらうが、その「實際」に對しては、いつでも深い敬意を表するのである。そ

して又、すべての實際保育者諸君に、その「實際」に於て自重自愛せられることを希ふて已まぬのである。

○ 實際保育者の貴さは、その「實際」以外の何物によつても加減せられないで、前に言つた。しかし、之れは實際保育者の客觀的貴さに就てある。實際保育者たるこそそのこの貴さに、外から敬意を表して言つて居るのである。しかも、その人自身に於ては、この貴さの自覺に基き、その貴さの十全の實現のために、その「實際」を、よりよき「實際」たらしめるための多くの努力を必要とせざるを得ないであらう。そして、その人間修養を、その文化教養を、その技能練磨を、その「實際」に聚注せしめ、集結せしめることに意を用ゐなければならぬ。

實際保育者は、「實際」を以て保育を行ふばかりでなく、「實際」に於て保育を高める人でなければならぬ。「實際」以外に於て、保育を高めることも必要であり、之れに當る者も亦、その意味に於て尊重すべきは勿論である。しかも、「實際」に於て保育を高める人は、實際保育者のみである。その他にはない。われらが心から實際保育者に敬意を感じるのはその故である。

幼稚園關係者は廣い。その各方面からの力の綜合によつて、我國の幼稚園は、高められなければならない。しかし、その大綜合の中で、最も中心の位置を占めるものは、なんざいつても實際保育者諸君である。——私は、仙臺市に開かれた全國幼稚園關係者大會の二日を、斯う考へ續けながら、其の會場に緊張を持してゐた。(十月十五日誌)



# 新支那の教育復興を視る (二)

東京女子高等師範學校助教

倉澤剛

四

私は今夏興亞院の依頼により支那における女子教育の視察に向かれた東京女子高等師範學校長下村壽一先生に隨行して、中支及び北支における教育復興の状況をつぶさに視察する機會を與へられました。一學期末の集團勤勞作業を終へた七月二十七日に東京を發ち、二十九日午前十一時上海丸で長崎を出發、三十日の午後二時上海に上陸、それから上海——蘇州——南京を視察して中支の概要を把へ、ついで津浦線で北上して濟南——天津——北京——通州を視察し、更に京漢線を保定まで下つて北支の大體を視、歸りは北京釜山間の直通列車に投じて、奉天經由、八月二十六日郷里長野に歸着しました。この間ちようご一箇月、あはたらしい旅行ではありませんが、皇軍將士の辛苦をまのあたりに視、同胞日本人のめざましい活動に接し、また中日識者の提携による中國教育の復興狀況を調べ、中にも輝かしい新東亞の建設をめざして教育の復興は是正發展のためには果敢に戦つてゐる若き中日教育者の意氣と情熱とに觸れて、まことに意義深い視察行を重ねて参りました。

た。まだ歸國しましたばかりで、集めて來た文獻の整理も終へず、興亞院への報告も漸く果したところで御座いますので、まことに未熟な記述しか出來ませんが、三つ四つ、本誌の讀者諸姉にお傳へ致したいと思ひます事柄を摘記したいと存じます。

○

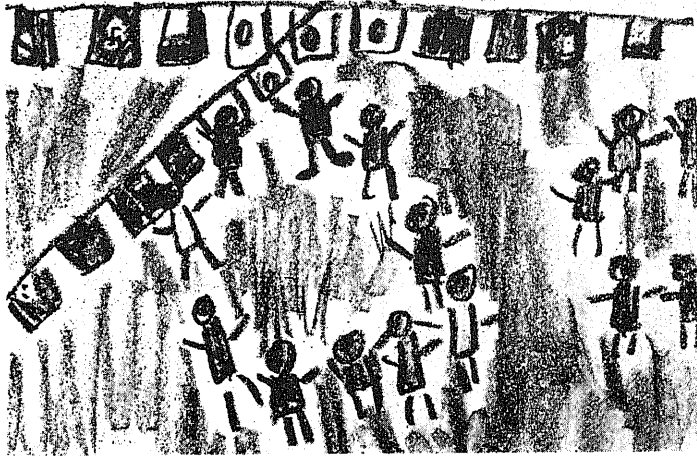
まづ大まかに申しますと、中支といはず、北支といはず、すばらしい復興ぶりです、すばらしい建設ぶりです。事變が始まつてからまだ漸く二年にしかありませんのに、中支・北支の主要部分には殆んど完全な治安が保たれてゐます。津浦線も京漢線——これだけはまだ一部不通ですが——も、京山線も京包線も、日本軍の指導のもとに時間も正確に運轉されてゐます。勿論夜行列車も安全に運轉されてゐます。私共は今度の旅行で一つも不安といふものを感じたことがありませんでした。治安の恢復と共に、經濟工作も、また文化工作も、着々として進められてゐます。しかも實に眞剣に進められてゐます。文化工作の第一は何といつて

も教育の工作であります。中にも小學校の復興は正事の  
仕事であります。あつた破壊は混亂の直後ですので、ま  
た各省・各市・各縣とも、まだ概ね財政不如意なのに、小  
學校の復興は正事には異常な努力を拂つてゐます。中支  
でも、北支でも、今までの誤つた抗日教科書を正しい親日  
教科書に改めると共に、大體初級小學の三年生(日本の尋三  
に當る)から日語を學ばせてゐます。同時に教員再教育の仕  
事が各地で活潑に着手され、今まで抗日思想の最も根強か  
つた教員層の思想は正に努めてゐます。今夏維新政府教育  
部の主催で南京に開かれた中小學教員のための長期講習は  
中にも著しいものですが、南京の教育部立教員養成所では、  
現任教員の中から有爲の青年教員を募つて、これに三箇月  
乃至六箇月の再教育を施し、これを各地に送つて幹部教員  
たらしめるやうにし、既にその第一期生を送り出しました。  
それから各地にも男女師範學校の復興を急いで、優良教員  
の養成に努めてゐますし、中等學校も逐次に復興されつゝ  
あります。もよみまだ満足すべき域には達してゐま  
せんけれども、短日月の施策さして眞に敬服すべきものが  
あります。

○  
支那の有力なある教育家は、「中國教育の失敗、女子教育  
に於て最も甚だし。」と切言して居られました。近時の指導

的な支那婦人は、女子の特質を發揮し、女子固有の使命に  
生きようと思はないで、男子と同じ教育を求め、男子と同じ  
く活動しようと思ひ、家政や育児を厭つて、政治や社會活  
動に向ひ、悪い意味でのアメリカニズムにむしばまれて、  
輕薄な享樂生活と功利主義を迫らるやうになりました。こ  
れは巨大な資本を擁する英米佛その他の歐米諸國が、數世  
紀の長きに亘つて豪華な大學や各種の學校を施設したの  
ですが、この種の大學が斷然他を壓して優秀でありますため、  
中國の婦人は競つて歐米系の大學に學び、自然のうちにア  
メリカニズムの虜になつたわけです。同時にこれら  
の大學は各地にも抗日の據點になつてゐたのですが、事變  
以後、これらの教授及び學生は多くは逃亡して、活動を停  
止するの止むなきに至りましたと同時に、女子の特性を忘  
れた過去の女子教育が、中國の婦人を損ひ、従つて中國の  
青年を誤り、ひいては國家そのものを誤るに至つたことが  
強く反省され、かくしてこれと對比的に、良妻賢母を目指  
して健全な家庭婦人を養成しつゝある日本の女子教育が、  
如何にも尊いものとして敬慕される様になつて來ました。  
それで、婦徳の涵養といふ事がまづ第一に掲げられ、勤勞愛  
好、質素儉約の教育が叫ばれて參りました。私は中國の學校  
を廻り、中國の識者と話して、今更の様に日本の女子教育  
の尊さを知りました。それと同時に國運の發展に對する女  
子教育の重大さをしみん考へさせられました。(つづく)

秋  
晴



## 幼稚園の運動會

東京女子高等師範學校教授 佐々木 等

一

園兒に取つて運動會程楽しい一日はないであらう。萬國旗が校庭に張り巡らされ、風にへんぼんまひらめく秋の小春日に、彼等は、かけつこに、おゆうぎに、球拾ひに、達留磨運びに嬉々として勇ましく或は無邪氣に活動をなす様は人間花輪であり、花園である。

園兒達の世界に、此の運動會程印象的なものはないであらう。

三日も四日も前から、その日の樂しみを待ちあぐんで居る。彼等は『かけつこ』に於て誰が一等にならうと皆自分が一等になつたものと思込んで居る。此の

時代は自己擴充の時代であるからである。

彼等は極く小さなこどもでも頗る偉大なるものゝ如く感得する時代であるから、運動會に於ける會場のつくり方でも、裝飾の仕方でも彼等の心身の發達に適應したものでなければならぬ。その設備、その裝飾の刺戟が、彼等の將來に對して何等かの示唆となる様な潜在觀念形成の助けとなる様なものであれば更によいであらう。

運動種目の如きも、彼等の心身の發達に最も適當したものであらねばならないであらう。『かけつこ』の如きも、出發から、決勝線まで走るこどもも決して悪いこどもではないが、出發線から出發して、再び出發線に戻るさいふ様な方法が子供の心理に合致して居る様に

思はれる。即ち、折返し競走の如き方法がよいではないか、彼等元の位置に戻るさいふこまは本能的に可能なることであるからである。

『おゆぎ』にしても、あまり複雑な動作を要求することは適當でない。何故なれば幼稚な時代であるからである。

競争的な遊戯にしても運動量の大きな、又、體力を大いに要する運動や、巧緻的な運動は之れを避けなくてはならない。

即ち、運動は極く簡易なもので短時間間に濟む様なものがよい。

而して、運動會の時間は長くて三時間位とし、それ以上にならない様にすべきである。あの時代の子供は運動によつて疲勞するさいふよりは、長時間に亘つて、同じ様なこまを繰返すことに倦怠を覺へるものであるから、適當なる時間でなければならぬ。その適當なる時間の長さは二三時間のところ

であらう。

それにしても屢々變化を帯びさせなくては注意を持續せしめることは困難である。

## 二

運動會は、一つのお祭であるから、皆樂しく氣分を揃へて行ふ様にありたい。それには、先づ第一に、お辨當が

子供達の好きそうなものであつて欲しい。おやつも適當にやる様にしたい。

大袈裟な樂隊などは必要がないとして、子供達の好きそうなレコードでも

かけたなり、時には風船玉を擧げるこま、なきあつてよいと思ふ。大人の様に、

體力を練る運搬競争を行はせるなさいふこまはよいこまではない。

御褒美なさいも、一等や二等のものにばかりやるこまなしに、出場したものは全部與へるさいふ様にすべきである。その品物であるが、それは時にはキャラメルの如きものや、ゴム球の如きものを與へるこま彼等は喜んで一層

喜んでなさうとするものである。

彼等は御褒美を貰つた積りで満足して居るものである。かくして一日の運動會が彼等の生活上に好影響を與へる様に導かれるならば、彼等の將來に對して必ずや立派なる効果を期待するこまが出来てあらう。唯、注意するこまは、彼等は常によく水を呑みながらのものであるから、彼等の發育の爲めの自然的欲求として要求されるものなる此の水は適當に與へてやらなくてはならない。但し、良質の水でなくてはならないこまは申す迄もないこまである。

水質の悪いものは、身體の健康に悪影響を與へるものであるから充分注意しなくてはならない。

又、此時代はよく、下痢や、風邪氣味のものが多くものであるから、そうした身體的に故障のあるものは、見物席に居らしめる様に命ずるか、休ませるがよい。

尚ほ、健康なものであつても、運動

中に、顔色の蒼白になるものなごのあ  
るものであるから、指導者は常に園児  
の顔色なごに注意して大事に至らない  
事前に之れを發見し、適當に處理する  
ことを忘れてはならないのである。

運動會の當日は、看護婦か、醫師の  
急救所を設け、萬一故障者の出た場合  
には、早速手當をなし得る様にしなく  
てはならない。以上は運動會に對する  
極く一般的のことを述べたに過ぎない  
のであるから、更に、實際にあたつて  
は、細案を立て、それが圓滑に行はれ  
る様にせなければならぬのである。

幼稚園の運動會は特に和やかな氣分で  
行はれる様に立案せらるべきであつ  
て、飽迄も、女學校や、中學校なごの  
如きものであつてはならない。何處に  
なくゆきりのある。然かも、引締まつ  
た運動會でなければならぬ。

終始神經質になりそうな音ばかり出  
したりしないで、時には雄大を感じせし  
める太鼓の音なごも聞ける様にするこ

よいと思ふ。子供が、こうした雰圍氣  
の中に活動する時は少しも飽くことな  
く、運動會の目的を果たすことが出来  
るであらう。

要は、子供達をして如何によく活動  
せしめ、如何にして喜ばせることが出

## 幼稚園に於ける運動會と遠足

東京 瑞穂幼稚園長 土川 五郎

### 一 運動會

幼稚園で運動會が必要か否かの論議  
はさておき、先づ現在では之を爲す所  
させざる所がどんな割合であるかは詳  
しく調べた事もないが、園庭の廣さが  
之れに適して居る所では行はれて居る  
所が多く、之れに反して狹隘な園では  
行はない傾向である。

其仕方については小學校と大差なく  
唯小さくやる所も、遊戯會と名付けて  
居ても學校臭い大人の計畫が多分に盛

來るかといふことを主眼として立案さ  
るべきではあるまいか、即ち、子供本  
位に立案されるならば必ずや效果的な  
運動會が出来るであらうことを信ずる  
ものである。

り込まれた所も、又全く學校と離れた  
世界を作られた所もある。

運動會の季節に入つて自分の姉兄が  
學校で運動會があるか近傍の學校で  
行はれて居る場合に、幼児が要求を持  
ち出すのである。即ち其外部の刺激か  
ら來る。

或は母も運動會を見に行く。場内高  
く裝飾旗が掲げられ、周圍の紅白の幕、  
地上には圓形や縦横に描かれた白線、  
歩道堂々ミレコードに足並を揃へて整

列、校長の親しみある嚴肅な訓話、此のお祭り気分にしたれる。競技が次々きこ遂行する、ヨーイドニスタートの姿勢、決勝點に入つて優勝旗を受ける所、校長の前に賞を受くる光景、それ々が幼兒の目に映する。殊に團體競技の捲入れ、鈴割り、ダルマ送り、綱引、或は滑稽味のある競技なき思ひくゝに幼兒の腦中に收めらるゝ。

是等の印象が其翌日から幼稚園に働き出すのであらう。勝敗に至つては幼兒は實に無關心とも云ふべき状態である。これ幼兒の競争心は其萌芽を出したるに過ぎない時代にあるからあまり眼中にない有様である。

觀覽者としての父母兄弟は自分の子供の勝負如何に、又他組の勝負をも大いなる興味を以て之を見る。

かゝる有様で勝敗がぎの場面にも出て終始する。唯其間に於て

唱歌遊戯或は行進遊戯が和かな音楽美しきメロデー、勇壯なりズムにつれ

て行はれる表現は全く全校兒童を觀覽者をして陶然として佳境にある思ひをなさしめ、前後に殺風景な氣分を一掃する感がある。此の美的運動を音樂、これを取去る時は一抹の淋しさを感ずる程人の感情を支配するものである。

以上述べた運動會によつて受けたる印象が園に於ての彼れ幼兒の内部的に刺戟となり、其模倣をなして遊ばんの慾求となり、先生をして運動會開催迄に押しに行くのであらう。

併し一考すべきは幼兒は決して運動會其物を要求するのではなく、其勝敗によつて樂しまんとするものではないことである。幼兒の要求する所は其模倣をして唯遊びたいのである、あの集團氣の中で集團的に遊びたいのである。故に幼稚園では

一、遊戯會を名付けて、徹頭徹尾「遊び」で終始したいのである。

二、主題は幼兒生活に興味、簡易、適切なものを選びたい。しかもやさしい。

いこばば幼兒にわかり易いこまばでプロに表したい。

三、全時間は約二時間位がよい所でせう。

四、幼兒一人に少なくとも三回以上出場する様にしたい。

五、唱歌、遊戯、律動遊戯を團體的に行ふ事は二回位を加へ一回は年少年長に分ち、一回は全體同時に行ひたい。而して一回に三種又は年長者は五種を程度とし一齊に揃ふ云ふよりは其一人一人が眞剣に楽しく行はせたい。

こゝに我が瑞穂幼稚園では其以前に小學校より招待を受け運動會見物に行き、其場にて突然遊戯をその要求に何の準備なく唯園で毎日なし居るものを演じたのに始まり、遂に二校から招待され之に答へるだけである。

本年は二校が同日に行はれたので二度のお務め、招待されて見物するか、遊戯の演出に行くのか甚滑稽

な事になった。

園内では樹木を多く植込んであるの  
で遊戯會は行ひ難いが要求は幼児か  
ら盛んに起ります。

故にいろ／＼と設備をして園内で各  
組に分けたり自由選擇の方法で保育  
室遊戯室で遊んで満足と與へて居る  
のでまだ充分さは申せない。

茲に幸に近く神戸幼稚園から送られ  
たプログラムを御參考に供して此の項  
を終ります。

體育會順序

日時 昭和十四年十月三日

(自午前九時半  
至午前十一時半)

- 一 整列(全幼兒)
- 二 國旗掲揚
- 三 遙拜
- 四 愛國行進曲
- 五 遊戯
- 1、お百姓 松、撫子組(男)
- 2、野菜運び 女

3、だるま落とし 男

4、散髪屋 女

5、秋の實のり 男

6、健康 女

7、互に 梅櫻組(男)

8、月の世界 女

9、航空日本 男

10、慰問袋 女

11、武士 男

12、秋の野 女

13、興亞の子供 菊、紅葉組(女)

14、國境警備 男

15、體位向上 女

16、防空演習 男

17、産業振興 女

18、海國日本 男

19、綱引 各組幼兒

20、行進 各組幼兒

二 遠足

幼稚園の遠足には小學校から受ける  
刺戟によつて發動する事が多い。併し  
彼の運動會のそれとは大いに趣が異な

つて居る。

平素の幼稚園生活が四圍の境遇の全  
く異なつたしかも自由の天地に移され  
る爲めに來る所の變化が幼児の心境に  
反映してそこに大いなる活動が展開さ  
るゝその喜びは到底園内の生活に比す  
べくもない。

かゝる幼児の喜びは保姆さんの喜び  
とかなり一層拍車を掛ける點なきは到底  
運動會に比する能はざるものがある。

併しこゝ迄に至らしむる爲に其場所  
を擇む事が一と仕事である。其他の小  
さき注意と用意とは中々多い事で其苦  
心は實にこゝには盡せない程である。  
併し天氣もよし何もよし大成功であつ  
た時の先生の喜びは又格別である。

この遠足を行ふに當つて小學校のそ  
れと異なる所は、一人の受持ちが三十  
人位を引率して行く事はあの幼兒とし  
ては大いなる無理がある。勢ひ家庭か  
らの附添を要する。私の經驗から致せ  
ば、家庭の附添を要するを云ふ考へよ

りは、家庭を合同して幼稚園の遠足即ち家庭の遠足を云ふ立て前で行ふ事が幼児にしても最もよい方法であるを考へて多年これを實行して居ます。未だこれによつて弊害のあつた事はなく又附添の出來得ない事情にある幼児は之れを一團として保姆が世話をする。又母が午前附添ふて午後には父が出先から加はるもの、一家總出を云ふのもあり、時には七十を越えた祖母一人で幼児より老婆を見てやらねばを云ふ變體もある。この方法から得る所の利益は、豫想外に多いので幼稚園としては母の會より得る所より頗る自然の内に收得がある。

一、幼稚園を家庭との親密の度を増す。

二、母其人を知り其躰け方取扱ひ方を知る事が出来る。

三、時に思はざる幼児の良い點缺けて居る點も又由て來る原因なき保育上參考となる點も知り得る。

四、お辨當の時はそれ／＼家庭が一つのグループを作り楽しく食事する光景は何をも云へぬなごやかさが現出する。

以上の如き利益は合同の方法から生み出される收獲である。

茲に注意すべきは、幼児のみの集まる時、家庭に幼児をまかせて全體をまゝめて行く事さがつきり區別されねばならぬ事である。

こゝに實例を擧げれば、一ヶ所の集合したる時は母の手元にある。これを幼児だけの列を作り行進する時は家庭のものは其列の兩側にあつて幼児の列は保姆の支配下におかれる。

動物園を見るにすれば、入口に於て家庭は幼児の列のあまにつき觀覽の際も同じ形式を取るが又は家庭のものは其列後に其小供の後ろに立ちて共に觀覽するにあらしむる。かゝる際は全く幼児は保姆の下にて見る。終つて食事に移る時幼児は家庭の下に歸る。終つ

て又列を作り見残りたる所を觀覽する。

此の方法で其場所對象の異なるにつれて臨機應變の手段に出る。

かくして一定の場所に集合する迄は家庭が連れて集まり、行進する時は保姆の手に移り、目的地に至りて一度家庭に渡す等凡て園長の指揮により終始すれば、何の誤りもなく目的を十分に満喫する事が出来る。

解散は其目的地例へば動物園にあつては場内で解散し家庭に觀覽も隨意又純家族的に他へ行くも御勝手先生もホットーといき云ふ所、中々得がたい難有味が存する。

こゝに觀察さか保育さか大人がいやに固くならないで一日を遊びほうける方がよい。其間に觀察も自然に基が出来て、園内保育の時描き方にお話しに此の時整理をすればよい。「今日の遠足で觀察しては」なきご角張らないで。



# 運動會と遠足

東京 京橋區月島幼稚園

蒔田ソヨ

## 運動會について

運動會は遠足と共に、園児の生活の中で一番に楽しみ待たれるものでありませう。

數へ切れない數を毎日のやうに、もう幾つ寝るに運動會、もう幾つ聞いては、やがて一つ宛少くなつてやつて、自分の知る數になるころ、輝かしい希望、待ち遠しい悦びは、遊びの中にも自然に現れて、期せずして豫行演習が行はれるさいふこども度々であります。

勿論體位向上に團體的訓練は、運動會舉行の目的の最たるものではありませんが、澄み切つた秋空に翻る日章旗の下、仕度も凜々しい子供たちの軽い足ざり、弾む心こそは、何にも替へ難い

得難く、尊い満ち足りた心の姿ではないでせうか。

本園では毎年十月中旬ごろ、園長先生の居られる佃島小學校と合同で舉行致します。二千坪と言はれる、大運動場を持つ月島四號地をすぐ近くに控へて居りますので都心には思へない清澄な空氣の中で、存分の運動會が出来るのであります。

芝生の上に礎を敷いて、普段見馴れないお兄さんや、お姉さんたちの、體操や、競技に拍手を送る子供たちの見やう見まねの禮儀正しい應援も、私たちにしますと、思ひもうけぬ收穫のやうな氣が致します。

運動種目は、遊戯、團體競技、徒競走の三種目で、遊戯は野外であるため

一一一

に、樂隊を使用した事もありませんが、最近では擴声器によつて、ピアノ或はレコードを、殊にレコードを使用するところが非常に多くなりました。

之れは、レコードによる幼児向の易しい、而も優れたものが普及されたと言ふことがその大きな原因かと思ひます。

今まで主として鑑賞用として用ひられた、レコードを直接、指導に用ひる機會は今後運動會に限らず、益々多くなることと思ひます。従つて、その撰擇指導については慎重研究の必要があります。今までより以上にピアノによる指導を、叮嚀に、正確になすこと、又あまり複雑な曲、歌詞等を撰ばないやうに言ふことは特に心がける必要があると思ひます。

次に團體競技であります。なるべくリズムが主になつて、團體を動かしたるものを選びます。

自己中心である幼児には、全體の中

の一人だとの考へは中々用意には納得出来ません、まして競技に熱中して來るに従つて、一對一、の氣持は益々強くなり、同時に弱い子供たちは手の下しやうもなく、茫然としてゐるこゝがありがちです。始終全體が一如きなつて行動の出来るもの、例へば、縫つて行く、デンデン蟲、なごを競技的に扱つた時のやうに、手を撃ぎ、肩を組み合せせるこゝによつて、そのグループを意識し、或はスリルには乏しいかも知れませんが、リズムによつて全體を考へる餘裕を持つこゝが出来るからであります。

従つて全體を共にするこゝいふ快びをも感じさせるこゝが出来ると思ひます。

徒競走は最も簡單に、然も幼兒の滿身の力を賭して、競走の出來、男の子にも女の子にも、一番よろこばれる競技であります。距離は大體三〇米前後が適當であります。

寶拾ひや、旗ざり競走のやうな變形した徒競走も結構ですが、單身自分の力一つばいを出し切れるこの競技は大人のおのテープを切る快感、ほんこの自分の力を量り知つた喜びを、子供なればこそ、みんながみんな感じられ喜ばれるのではないでせうか。

以上のやうな心構へで、種目の撰擇は致しますが、何時の時代にもそうであるやうに、女の子は優しいもの、をよろこび、男の子供たちは何さしても運動量豊富な團體競技、徒競走なごをよろこびますので、最近遊戯は女兒に團體競技は男兒に、に分けて實行してみました。果したが、何れも大よろこびでした。果して幼兒時代から別々の取り扱ひをなすこゝは如何かと思ひましたが、之も一つの試案として實行してみました。

#### 遠足について

常に都會の騒音の中に終日を暮らし、わづかに粘土遊びや、狭い砂場の遊びに土の感觸を満そうにする子供たち

ちを出来るだけ、機會ある毎に郊外に連れ出し自然に親ませるこゝは、都市幼稚園の特設すべき一つの保育事項だと思ひます。

神社に參拜し莊嚴な神域に敬虔の念を養ひ、神前に頷いて愛國の誓をなす、又重要な保育の一時であります。

遠足はこの意味から少なくとも毎月一回位の豫定で案を立てるのでありますが、實際には一ヶ年五回自至六回位でそれ以上は或は天候に或は突發事項に中々實行し難いやうであります。殊に經費の點で思ふやうに連れ出すこゝの出来ないのは誠に遺憾なこゝであります。

#### 一、附添の行かない遠足

六月の動物園行きはやつて團體生活に馴れた子供たちの初めて一人で行し遠足に、非常に喜びを感じたらしく殊に家庭からもよく出かけるお馴染の場所であるだけに個性的指導をすることが出来ました。

以下昨年度實行の大體を列記してみます。

月 日	場 所	乗 物	本園より 目的地所要時間	附添の 有無	費 用
五月十八日	豐島園	武藏野電車	一時間三十分	有	附添實費園児區費 本園後援會より
六月十五日	動物園	市電	一時間徒歩十八分	なし	本園後援會より 附添實費園児區費 不足後援會より
九月三十日	日吉臺芋掘り	東横電車	一時間徒歩二十分	有	本園後援會より
十月二十七日	靖國神社	市電	五十五分	なし	本園後援會より
十一月二十七日	牛込陸軍病院	市電	一時間	なし	同
三月十二日	明治神宮	青バス	三十分徒歩十五分	なし	同

一四

てゐること

一、交通機關の利  
用が便利で簡單  
であること。

一、子供たちが園  
體生活にやゝ馴  
れてからなすこ  
と。

この三つの條件が

十月二十七日靖國神社の臨時大祭も  
終り、神鎮りました社殿に、子供たち  
の心からなる祈り、殊に良技ちやんの  
お父さんこゝに祀れてるんだね、と身  
近な例を知る子供等の類づきは、英靈  
にも強く届いたことでありませう。

十一月の陸軍病院慰問は、子供たち  
の七五三の歡びを分つため、園児たち  
の作つた袋に千歳飴を入れて、來年の  
「幼兒ごよみ」(女高師にて作成のもの)  
と共に持参しました。白衣の勇士の方  
々と共に歌ひ、又お遊戯なごお目にか  
けて歸りました。

三月の明治神宮參拜は、毎年保育終  
了の子供たちの感謝と喜びの報告をな  
す可くお詣りを致します。

附添の行かない、このやうな遠足は  
子供たちも案外に元氣に、殊に目的地  
にあつての行動も自治的でお辨當や水  
筒の仕末なきもよく所理し、すべてに  
和かに且つ生活的に指導することが出  
來、眞の園外保育の意義をこゝにこそ  
感じられるやうな氣が致します。但し  
之には

一、目的地が特に危険のない場所であ  
り且又指導者が目的地を熟知し

必要であります。従つて所要時間も一  
時間以上を要する所は考へる可きであ  
りませう。

費用もなる可く低廉に本園では一人  
拾錢を限度として本園後援會から之を  
支出致して居ります。

以上の諸點を考慮致します時、市電  
利用の出來る範圍内で理想的な地を求  
めることが先づ便利であります。

市電一臺貸切、往復八圓二十錢で園  
児一三〇人位までは樂に輸送出來ま  
す。市電運轉系統の變更の許される範  
圍として、私の園からは靖國神社、後

樂園、明治神宮、日比谷公園、乃木神社、麻布三聯隊、一聯隊、小石川植物園、上野動物園、芝恩賜公園等主な候補地であります。

此の他、地下鐵利用も今後考へられる可き方法であります。

## 二、附添と共に行く遠足

春秋二回お母様方と共に行く遠足は子供たちにとつては非常に大がかりな遠出であるだけに、その喜びも一層大きいものがあります。

園としてこの喜びをより有意義なものとなす可く、行動を共にするお母様方の協力を得ることが先づ大切であります。遠足舉行の月の「幼稚園だより」には細々と遠足の目的、意義など時には目的地の史實などを記しておきます。子供たちと共に周囲の風物を見直して戴きたいと願ふのであります。

然し常にお家にあつて子供の世話や家事に追れてゐるお母様方の、たま／＼こうして子供たちと共に廣々とし

た所に出て来る楽しみ、お母さま方の慰安も又重大な目的の一つとして認めざるを得ません。

秋の芋掘り梨挽ぎ等、都會に住むお母様たちの殆、初めてと言つても好い経験は驚きにも似たよろこびであります。費用は附添は實費、園児は區費より拾四錢、不足は後援會より一名拾錢を限度として補助されますのでその費用内で實行し得る場所を方法を選びます。

## 三、お散歩

お散歩も又遠足の一形式で行はれる場合が度々あります、時としては二軒以上もある深川公園、深川清澄公園にお辨當を持參で落葉を拾ひに行つたり、或る時は五號埋立地に飛行機を見に行く等、かなりの遠出を致します。

然しその範圍はなる可く二軒以内、主に月島四號地に出かけます。

春は柔いクローバに埋まつて花輪や首飾りを作り、草の土俵に角力を取り、

秋は子供たち苦心の捕蟲網や空箱利用の蟲籠を持つて、トンボを捕り、バッタを追つて一日を過し、お手製の凧を上げに行くこともあります。時には小兎がお供をし、小石や貝殻がお土産の時もあります。

あの草原の何處に窪地があり、彼處には草に覆れた溝がある、向ふの砂地には貝殻の破片が澤山あるなど、地形に對する深い認識が先生も、子供も非常に解放的にしゆつくり遊ばせてくれます。

何時も不變な場所ではありませんが、自然の推移が子供を飽きさせず迎えてくれます。

ガソリン節約、電力不足の折から、わづか一五〇米に離れない所にあるこの大きな自然は、私の園のためには將に國策線に沿つた好適の園外保育地であり、體力鍛練の場所であります。一週一回の豫定でお辨當を保育内容も持參で、長蛇の列は月島四號地を繋ぐ

朝潮橋を渡ります。

以上簡単な本園運動會を遠足の概略でありませんが、之によつて強い體で

## 私共の運動會と遠足

岩手 女師附屬幼稚園

### 高橋 タツ

#### ○運動會

去る十月七日銃後々援強化週間第五

日目は「傷痍軍人の日」でございました

ので、此の日に白衣の勇士をお招き致

して例年の通り秋季大運動會を開く豫

定で御座いましたが、雨天順延で「忠靈

顯彰の日」を交換致しまして八日に舉

行致しました。本校、小學校、幼稚園

と合同で致しましたので大々的な運動

會でございました。場所は女子師範學

校々庭で午前八時開始、午後四時終了

でございました。當日のプログラムは

左之通りでございます。

一同集合 校旗入場 國旗奉揚

何ものも受け入れられる太く逞しい心を作  
る素地ともなれば祈つて居ります。

開會の辭

體育運動歌

演技、種目は全部で八十二、其のうち幼

稚園の部は次の通り

午前之部

一 番 體操 國民保健體操第一

(全校合同)

十 七番 遊戲 カケッコ、お月様

二十六番 競技 鯛釣り

三十六番 團體競技 蝶追ひ

午後之部

七十二番 遊戲 兵隊さん、太平洋行進

曲

八十番 競技 全校繼走(職員 生徒

兒童 園児)

八十一番 遊戲 日の丸の旗、兵隊さん

(全校合同)

八十二番 體操 國民保健體操第二(全

校合同)

成績發表 運動會の歌 閉會之辭

萬歳三唱 國旗奉降 校旗退場

一同解散

幼稚園單獨の立場で眺めますと、この  
プログラムは無理を考へられる點も  
ないでもございませんが、これが又一  
而岩手縣女子師範學校の特色とも云へ  
る譯でございます。殊に昭和十四年度  
の運動會方針は次の如き目的のものに  
計劃され編成された次第で御座いま  
す。

一、本年度實施に當りて特に時局に

對應し國民體位向上を學校體育の

重要性の立場より左の諸點に留意

す。

1、團體的訓練並諸動作の重視。

2、個人的競技より團體的競技に主

力を注ぐ。

3、國防競技に關連したる種目を本

校附屬性別學年程度に應じて實施す。

4、特に日本精神發揚の態度に留意す。

5、競技出場に際しては「一戰必勝」の信念に於て之に當らしむ。

二、行事豫定(特に幼稚園に關係あるものゝみ次に述べる)

1、八月十七日 本校附屬幼稚園代表職員打合せ

2、八月二十五日、各役員打合せ

3、九月一日 出場生徒兒童園

兒一覽表作成用具目錄作成

4、九月十三日 招待者名簿原案提出

父兄宛案内狀原案提出

會場略圖原案作成提出

5、九月十八日 全校合同種目練習(遊戯)

6、九月二十日 プログラム原案提出

7、九月三十日 招待狀並父兄案

内狀發送

傷痍軍人招待狀發送

8、十月二日 全校合同種目練習(體操)

習(體操)

9、十月四日 豫行演習並豫行

演習批評會

10、十月五日 プログラム校

正

11、十月七日 會場並諸準備完了

了

12、十月八日 運動會實施、後

始末完了批評會

13、十月九日 來年度運動會

經營豫定案提出

以上の通り私共の運動會の特色は三

身(本校、小學校、幼稚園一體となつ

て各々能力を發揮しようとする努力、準備

としては平常、時機に應じ、演練を怠

らぬ様にして参りました。

プログラム順に従つて更に詳しく申

上げます。一同集合から演技に入る

までの整列は園兒も同一步調で相當嚴

肅に行ひました。演技の第一番の國民

保健體操(第一)は全校校庭に縦體に整

列して子弟同行致し、天候にも恵まれ、

日章旗飄る張り切つた空氣の中に演技

のスタートを切りました。それまで約

三十分、園兒に取りましては相當長時

間の緊張で御座いましたけれど、思ひ

の外疲勞の色も見せませんでした。用

意してある椅子に極く氣樂に休ませ、

十七番の自分達の出演するのを待ちま

した。遊戯、カケッコ、お月様ピアノ使

用、歌は小學生七名にマイクで放送し

て頂きました。校庭の真中に用意され

てあつた圓周に六十名のかはい、園兒

はニコニコして並びました。觀覽者

の視線は一時に集合したかの如く見受

けました。でも園兒達は至つて平和な

氣持で何のこだわりも見せずに踊つて

ります。ピアノの合圖でさまりよく終

りを結び急に汽車ぼつばで校庭から姿

を消し、周圍からは拍手の音がしばら

く響き渡る……。

次は二十六番の鯛釣りを心待ちに待ち續けました。園児は他の競技を観る事よりも僕の番の來るのが氣になります。しいです。「先生今度は何番、何？」と幾度もきゝ正します。さあ鯛釣ですよ、さういふ皆此の時こそ勇み立つたかのやうに瞳を輝かして集つて來ます。

(この競技は紙鯛を竿につけて走るのです)紅白の鉢巻もいつになく固く結ばれてあつたやうです。年少組の女兒、男兒、年長組の女兒、男兒の順に四回に五つて三十米のコースを走り乍らかはいゝ釣竿で鯛を釣ります。中にはあわてゝ鯛に逃げられてボカンさしてゐる子も見えます。面倒になるさ釣る事を忘れて両手に捕へて持つて走る子もありました。さうして決勝點まで入つて來る時の一人一人の顔、何とも形容の外はございませんでした。保姆のみがわかる顔でございませう。

今度は三十六番の團體競技になりま

す。全園児を紅白の二組に分け遊園扇に紅白の紙を貼つて蝶を細絲でつけそれを追ひながら走る競技でございまして、二十米の所を往復して次の友に渡しますが競技はごこまでも約束通り正しくやる事、不正行爲は禁物、今年はあまり元氣よく追ひましたので、途中で絲は切れて蝶に逃げられて大失敗を致しましたけれど、そこに又面白味もございしました。白衣の勇士達も何もかも忘れたかの様に一牛懸命應援して下さいました。周囲の各所からは激勵の言葉が飛んで參りました。校長先生のお顔も始終ニコニコでありました。これで午前の部は終りました。晝食はお家の方々さゆつくりせました。お

いしく嬉しさうに、さうして御褒美をして一同にお菓子をおあげしました。七十分の遊戯まで大分間がありましたのでゆつくり遊ばせました。でも園児達は早く僕の番が來るこを願つてゐたやうでした。午後は又觀覽者が一層多くなつて會場の周囲は人山を築きました。兵隊さん、太平洋行進は立派にやるんだミカんでゐる子も見えました。其のうちにアナウンサーが「今度は幼稚園のかはいゝ坊ちゃん嬢ちゃん達のお遊戯、兵隊さん、太平洋行進曲です」こつたへたかと思ふさ直ぐ愛馬進軍歌の行進マーチの音律が會場いっぱいになり、氣持よく響き、間もなく園児の行進がいさゝか軽やかにはじまり前よりも一層自信ありげな足ざりです。緊張した父兄席の方々の瞳も輝いて見えます。我が子の姿を見まもるやうに。白衣の勇士の視線も異様に輝きます。自分達のお仕事をすつかり占領されたやうな有様です。これも大した人氣さ底力のある拍手を送られました。この時自分達の演技はこれで終つたのかさういふ安心の色を園児達の顔に見るのでございしました。でも八十番の全校總走では一段の緊張を感じました。生徒、兒童、園児の中から紅白の選手が出てそれに職員全部入つての總走です。全

くの見物です。長若男女を問はず観覽者まで皆夢中になつて應援して下さいました。園児席からは盛に保姆先生の御名を呼び、聲を限りに勵してゐる聲が聞えます。其の張り切つた空氣は他に見られない光景であつたらうと思ひます。遂に紅の勝利となりました。それを見て僕は白でもよいよ、僕の兄さんもあれば僕は白でもよいよ、僕の兄さんが紅、私の姉さんが紅、僕の父さんは紅だ等といつては自己満足をしてあきらめてゐる子もありました。八十一番の日の丸の旗、兵隊さんは、全校合同です。日の丸の紅は本校生徒によつてつくられ、白地の輪廓は小學生、球帽は園児によつてつくられたのです。天高く舞く日本の旗日の丸の旗の下に此の遊戯を演じた時には心から我が國旗の尊嚴さを感じないでゐられませんでした。八十二番の國民保健體操も第一と同様の體形で元氣いつばいにやりました。それですつかり演技は終りプログ

ラムの順に従つて閉會し、萬歳を三唱して解散致しました時には、夕日西に沈み秋風少々身に沁みてゐました、幼稚園児の父兄は大部分最後までお待ち下さいました。何等の故障もなく元氣いつばいで後を見返りながらさやうならをしてかへつて行きました。明日はお休みを約束致しました。

× × × × ×

午前八時から午後四時まで園児をこゝめて置く事は疲勞しないであらうか、飽きはしまいかこの懸念から以前は午前中だけの仲間入れをさせて頂きましたけれど、一昨年から最後までこゝめてはごうかの相談がまごまり、致して居りますが、今年も大した無理を感じないで過すこゝが出来たやうに思つてゐます。校内全體が運動會氣分に満ちて居り、お家の方々も終りまでお待ち下さる爲でございませうか。全校合同でやつたことについては平素出来ない程の忍耐力も養はれ、我儘も自然

の中に抑へられたやうに思ひます。さうして又園児達は本校、小學校の大きい方々を御一緒にやれたといふ一種のほこりのやうなものも感じてゐるのでございませんでせうか？。終了後は直ぐに後片づけをして、本校生徒職員で今日の運動會の結果について堂々批評意見の交換を致しました。さうして來年度の運動會經營豫定案をつくり上げたのです。かうして私共の運動會は年々進歩して参りますやう心から願つてゐる一人でございます。

### ○遠足

次に私共の遠足についての概略を申し上げる事に致します。私共はお天氣さへよければ出来る丈日光を新鮮な空氣を健康の友として園外保育を致して居ります。

幸ひ岩手公園が直ぐ近くでございませうので三〇〇米又一ヶ月に一度或は二度位は遠足に出かけてゐます。例



へば春は岩手公園の花鳥、梅林、櫻觀、天神山(約二キロ)の草原、盛岡高等農林學校植物園(約三キロ)に一日を過すのも樂しみでございますが櫻觀は何さいつても上田の高松池(約四キロ)でございます。遠くハルピンの空を仰ぐ、横川省三氏の銅像近く遊んでは郷土の偉人の倂をも偲びます。護國神社(約二キロ)、縣社八幡宮境内(同)に遊んでは武運長久祈願、敬神の念を養ひ、雫石川に架けられてゐる澤田橋(八キロ)に涼を取りながら水泳觀祭に目高取り、雄大に聳える岩手の靈峯を仰ぎ、やさしい鈴蘭で名高い姫神山を眺め、美しい大自然の中に心ゆくまで遊び耽ります。又雫石川と北上川との落合ふ杉土地(二キロ)に於いて鐵橋觀祭、お尻をはしよつての川涉りや明治橋近くの浮島公園(三・五キロ)で川風を吸ひながらの笹舟流しも喜びの一つでございます。秋は又岩清水農園(四キロ)に實のる果物、野菜の觀祭に、いものこ、南

瓜なぎの即席會食、田園風景の觀祭や舊櫻山(三キロ)に於ける秋蟲觀祭、紅葉狩皆思ひ出の深いものばかりでございます。冬は岩手公園でのスキー、龜ヶ池のスケートで東北の健兒をつくり上げたいと努力致して居ります。遠足には二キロ位まではゆつくりと徒歩で參ります。それ以上になりますと、片道或は往復自動車に致して居ります。この時には必ず園報を發行して、用意するもの、出發歸園時刻、統導者、道順等詳しく家庭に知らせて置きます。母之會と合同で參る時意外は遠足の附添は色々の弊害をみこめ、おこまり致して居ります。子供等はいつの時でも遠足を喜びます。おやつは園から用意したものを一齊に與へ、家からは一切持たせないやうにしてあります。費用一切は當幼稚園ふたば會費(保護者會費)から支拂ふことにしてあります。

## ○第七回全國幼稚園

### 關係者大會

仙臺の大會は、主催者側の御盡力と、參集會員諸君六百の熱意とを以て、一切豫定のプログラム通り、極めて盛會裡に完了。斯界の進展の上に多大の貢獻を與へられました。その記録は目下主催者側に於て整理中であり、近く本誌上に掲載の豫定になつてゐます。その爲重複を避け、本誌に於ては、その記事を略します。

# 紅葉と落葉

堀 七 藏

一

紅葉ミ落葉を觀察材料とすることは至極結構である。紅葉する葉にぎんなものがあるか、ぎんな色か、落葉せるものはぎんなものか、落葉せぬものはぎんな葉か等につき觀察させるがよい。また落葉をはき集めてたき火をなさしめるもよい。しかし紅葉や落葉について六ヶしいことを説明するのは禁物である。唯教師としては紅葉ミ落葉について充分なる知識をもつてゐることが誠に望ましい。それでこれから愚息東京大泉師範學校教諭堀正一が紅葉ミ落葉につき説明せるところを參考ミして掲載する。

二

櫻桃の花も散り、青々とした若葉の景色になるさやがて藤の花が咲き出す。夏になるミ、所々の空地には、やへむぐ

ら、かなむぐら、のあさみ、たけにぐさ、いらくさ、晝顔、ふきや種々の禾本、莎草の如き雜草が、殆ど尺寸の餘地を残さぬ迄にはびこつて叢を作るやうになる。旨い秋茄子が市場に現れ、野には秋の七草が一面に茂り出して、いつしかこの頃の曉露に吾がやぎの

秋の下葉は色つきにけり

ミ云つた様な紅葉の候ミなる。

三

紅葉には非常に種類が多い。普通もみぢの紅葉を觀賞するところから、紅葉ミ云へばもみぢのこを云はれる位であるが、もみぢの外に多くの紅葉樹がある。

紅葉の現れるのは秋の末、氣温の寒くなりかけた頃で、晝は、清澄な秋の空から紫外線に富んだ光線が豊富に地上に注ぎ、比較的溫度が高く、これに比して夜間はかなり

二

溫度が低く、溫度の變化が多くなる時に紅葉するやうになる。

穗積皇子

今朝の朝け雁が音ききつ春日山

もみぢにけらしわが心痛し

大伴家持

雨ごもり心いぶせみ出でみれば

春日の山は色づきにけり

春日山その他京都附近の紅葉はやまもみぢである。梅尾、高尾、横尾など何れもみぢの名所である。嵐山の紅葉も赤松の間に見え隠れに保津川の清流に映る趣も中々捨て難い。

京都附近の庭園的紅葉に比するに、日光や鹽原の紅葉の景觀は非常に雄大である。紅葉の種類も、やまもみぢばかりでなく、はうちはかへで、みねかへで、かぢかへで、等のかへでの他に、ななかまぎ、かまつか、つたうるし、こまゆみ、錦木、三葉つゝじ、五葉つゝじ、あかしで等の紅葉が加はる。これ等の紅葉は葉の形、大きさの相異ばかりでなく、その色も千變萬化である。

眞紅のもの、紫色のもの、黄色を帯びたもの、褐色を交へたものなど、色濃度に種々の變化があり、松のみぎりに映えて、一段その美觀を増して居る。

日光の神橋邊から大谷川に沿つて往くに、馬返までの山々は、全山もえるばかりの紅葉で、大伴家持が

足引の山の黄葉もみぢこよひもか

浮びゆくらむ山河の瀬に

と歌つた様に、紅葉が散り大谷川に浮ぶさまは實に美事である。

華嚴瀧、中禪寺湖あたりの紅葉、湯元、白根山麓の紅葉は各々特殊の風致がある。中禪寺から菖蒲ヶ浦まで、男體山の下の下の密林を往くときは特に美しく、それこそ紅葉の錦に包まれて居る様である。日光ほゞ景觀の雄大で變化に富んだところは、一寸見當らぬ程である。又雨中の紅葉は殊に鮮やかに、變つた趣があるものである。

いてふ、からまつ、だんかうばい、さきはあかめかしの類は葉が赤くならず黄色になる。たらのきなどでは葉が白くなる。これ等の色が紅葉の外に特殊の色彩を興へ、常緑樹の緑さあいまつて、一段美しさを増すことは云ふまでもない。

#### 四

前に述べた様な紅葉の現象は如何なる理由によつて起るものであらうか。秋が深くなつて來るに、朝夕は次第に涼

しくなり氣温が低下して來る様になる。これに反して日中はかなり氣温は高く、その上澄み切つた秋空を通つて植物に作用する紫外線の量は中々多く、それがため葉の表面から水分が相當に蒸散して行く。然し夜間は氣温が低下して、根からの水分の吸収が困難となり、植物體內の水分が不足して來るやうになる。これが爲に葉内にあつた水分や澱粉、葡萄糖の如きものが、幹の部分に移動して來る。春先にみづ／＼しい綠色を示して居た葉内の葉綠素が水分の不足、紫外線の作用、氣温の變化なきの原因で次第に消滅し、これに代つて花瓣の中に見られる紅色の花青素と云ふ色素が出現して來て紅葉現象を呈するやうになる。

要するに晝は暑く夜は寒く氣温の變化の大きくなつたときに葉綠素が褪色し、紅色の花青素が形成されて紅葉するのである。併し何れの國でも紅葉が見られるのではなく、第一に紅葉すべき樹木のあるところ、又氣候の適良なる處に限るわけである。世界で紅葉で名高いところは北米の或る一地方で、日本支那なきで、殊に我が國は紅葉に富んで居り、その上氣候が良いため他に比類のない美觀を呈するのである。

## 五

秋が一段とふけて來るこ、

十月かんなき時雨にあくる黄葉の

吹かば散りなむ風のまにまに

木枯吹く頃になれば紅葉は次第に散り果て、潤葉樹は坊主になり、獨り常綠樹のみが葉を持つやうになる。

紅葉はさうやら僅かながらの水分で、やつ／＼の生活をして居るさ云つた状態であるが、愈々根の水分の吸収力が衰へるさ、終に水分經濟が破綻してしまふ。而して少しでも外部へ水分の出ないやうにするために自ら葉を落し蒸散作用をする面積を縮少してしまふ。故に植物生理上から見れば、落葉現象は紅葉に比べると更に水分が缺乏し苦しい状態のさきに起るものである。

十一月になり街路樹の葉が殆んど散り果てた頃、街燈に面した部分に、僅かの葉が散らずに残つて居るのを興味深く眺めるさがある。これは夜間に灯がつくために燈火に近い部分の葉のみが特に良い状態を得て居るのであつて、燈火の影響を如實に示すさぶる面白い現象である。

未だ落葉しないさかけの葉を葉柄のもさから折るさ、容易にささかけの葉は脱落し、葉柄のつけ根が刀の鞘の様になつて、既に完成した來年の芽を保護して居るさ分る。落葉と同時に冬の用意否來年の用意までして居る可憐な姿を見るのは非常に興味をそゝられる。

# 殘花聚園 (十)

(日本幼兒教育史資料)

東京女子高等師範學校教授 石川謙

## 八、大原幽學の幼兒教育觀(一)

一  
八石教會は性理教會と云ふ名前で、今日も尙千葉縣地方の一部に維持せられて、農村教化の上に堂々たる力を持つてゐる教團がある。此の教團の先祖となり教義の創設者となつたのは、大原幽學である。今度は其の幽學の幼兒教育觀に就いて稍々詳しい紹介をして見よう。大原幽學は、寛政九年に名古屋藩の家臣大導寺玄蕃の次男として生れ、安政五年に下總國香取郡長部村に於いて自殺した。時に享年六十二であつた。幽學は文化十一年、歳十八で勘當の身となり、京・大阪を中心として、近畿地方の各地を彷徨するこゝろ十六ヶ年であつた。此の間に神道・儒教・佛教等の教義を修め、又好んで史蹟・名所等を歴訪した。天保元年三月儒學の師匠提宗和尚(近江國松尾寺住職)の教を受けて人心教化のこゝろに志し、八月に信濃國上田城下に入つて初め

て、改心手引の事に従事した。改心と云ふのは幽學教化の目標でもあり手續きでもあつた。此處に居るこゝろ一年にして、上田・小諸の城下を中心に、四百餘名の門人が出來たが、翌二年八月に去つて江戸に來た。時に幽學三十五歳であつた。天保三年三月上總の久留里に來て、藩の家老岡本氏の舍弟新九郎を改心手引したのを手始めにして、文雅風流と教化との二道かけて房總の野を往來し、時に屢々常陸を訪ひ又江戸を訪ねた。翌四年の日記から、段々道歌の記載が多くなり、五月十二日の條に「性理學」の文字が初めて見えて來る。天保六年は性理教會の發達史上記念すべき年であつた。此の年になつて長部村の遠藤本藏の書院に假道場を造り、教會の基礎を固めたのであつた。同九年になつて幽學の教化事業は愈々實生活指導に這入つていつた。即ち子孫永續法として先祖株組合の設立を思ひ付き、これを調査立案したのであつた。つまり改心教化から農村指導

へ移りかへつたのである。嘉永二年には改心樓を長部村宇八石に建て、教化の本部とした。時に幽學五十三歳であつた。ところが越えて嘉永四年には幕府の嫌疑を受けて江戸に送られ、取調べを受ける事七年の長きに及んだが、安政五年正月になつてやうやく罪を赦されて長部村に歸る事が出来た。そして其の三月に自殺して世を終へたのである。

彼の著書として残されてゐるものに『微味幽玄考』と云ふのがある。先づ最初に、此の書物の第六章兒童教育と云ふ部に見えてゐる幼兒教育についての思想を簡単に紹介して見たい。

幽學の考によるに、胎内教育——所謂胎教が必要であつた。然し其のこゝは今此處では觸れないでおく。そうして出産後の養育の法則だけを取上げて、問題としたい。

「夫れ人は生れて乳を呑み初る事則ち物を思ふの初也、然れども其百日の中は物を見るも見ざるも無く心は雲歟霧の如し

細註「其百日の中は譬は實種したる松の地中を出たるに齊し百日を過ぎてより二歳近く成るに隨ふて惠顔も聲を發して笑ふ事に至る也、是れ則ち漸々に心の心たる事に至る所以なり、故に見聲事に漸々力を得て其氣質の用の種と成る事の盛みなるも亦是に順ふ以下皆是に做ふべし」  
「細註」其心の生長したる事松の地中を出て則ち松の形を作りた

るが如し

これによるに、子供は生れてすぐから既に養育並に教育に就いて、注意されなければならない。殊に生れて百日の間は、種から發芽した松が地中を出たやうなものであり、それから後の二百日間は、松の形がはつきり出来上る時期である。隨つて施す術が甚だ少いにも拘らず、注意し警戒しなければならぬ事は、此の時期に於て最も多いのである

「二歳と成りては物の名、黑白の名を知らずといへども黑白を見別け或は物音に驚く事持有る事に至ては其見聞事の力も亦漸々強くなるなり

「細註」是れ松にして則ち形の顯はれたる頃の如し

二歳になるに、未だ物の名も知らず色の名を知らず形の名を知らないが、それは言葉を知らないこと云ふだけの事であつて、物を見別け色や形を見別ける事は既に始まつてゐるのである。だからこそ物事に驚く事もあり泣く事もあり喜ぶ事もあるのである。既に一通りの人間生活の心の運びが備はつてゐるを見なければならぬ。隨つて周圍から受ける影響によつて、心が左右せられる姿はいよゝゝはつきりして來るのである。

「三歳近くなるに順ひ笑ふ顔と怒かる聲とを見分け聞分くることに至る也、或は三歳となりては物を言ひ初

め或は歩行初めることに至て則ち心の心たることに至りたるもの也故に見聞くことに思惑有り

「細註」是れ松にしては二葉極りたる頃なり故に四歳近く成るに隨て松にして松の體極り明れば枝を出すの潤を持たる頃の如し四歳近く成るに順ひ則ち才智の萌を能く備る頃也

「註」故に此四歳と成る迄の中に其心に移す事則ち所謂氣質の用の種と成る者の本元也と知るべし然れば其移す風に依て其行の善惡邪正を顯す事の本元も亦是に窮るべし

「細註」故に子を育る者は必ず先づ大いなる法を極て以て是を移す可しと云ふなり、才と智とは相混じたる者なれども性質聖人にあらざる者の才進む時は必ず智後るものなり故に必らず先づ智を元として才は必らず末として育るを宜しとす可し、又云ふ才より智を勝しむるには必ず先づ寛柔を以てして俗に云ふ馬鹿のやうに育て可し、然るに於ては才に尅る事なければ智の後る事も無かる可し

又云愚俗の性質なる者杯を若し利口を以て育るに於ては或は物に浮れ杯俗に云ふ輕るはずみをして家身を亡す者擧て數ふ可からず見て知る可し、故に器量無き者は猶さら利口を必ず其身の敵と心得べし、亦愚俗の目には馬鹿と見ゆるとも仁に近きを宜しとすべし、是れ則ち家名相續の大事なり

四歳となりては萌したる才智の芽をふき出すの頃也故に物を辨へる事に至る也

「細註」松にしては始て枝の出たる頃なり是れ亦枝々の構の善し

惡しもつちかひ肥しの上手と下手によつて枝振の善惡も出来るなる可し、人も亦是の年迄の氣質の用の種善ければ其所爲も善き事を辨るなり亦若し其種の惡ければ其思ひ附事皆惡し能く試み其幽玄を能く味ひ知る可し

三歳になるに、自ら笑ひ泣き怒るばかりではない。他人が笑ふ顔、怒る聲を見分ける様になり、聞き分ける様になり、そうして言葉も判つて來るし歩く事も始まる。つまり運動と初歩の知覺が始まるのである。此の事實を彼は「見聞くことに思惑有り」と記してゐる。四歳からは、わけても注目すべき畫期的な成長をするもの、彼はみてゐた。四歳近くになるに、もうすべてに知覺の芽が充分に備はつて來るに、彼は見てゐる。此の知覺の芽に對する周圍の取扱ひが極めて大切である。其の如何によつて、一生涯すくなく伸びるのであらう心の成長を、助ける事にもなり妨る事にもなるのである。

彼は此處でも心と體との成長を、松の成長にたとへて、自然の成長と偉大さを讃へてゐる。然し人間の場合に於ては、既に此の頃から一定の方向が與へられなければならぬと考へてゐるのである。

「五歳近く成るに順ひ漸々才氣舒る故所謂種の本元の善惡によりて其父母兄弟等に對しても其云ひ作す事に善惡の差ひ則ち的前に顯る、事見て知るべし

「細註松の枝ぶりよからぬとて漸々の事に出たるばかりの枝を切る時はその木痛み風して舒難かる可し、人の子も亦是に似たる味ひ有り、其所以は才智初めて顯はれ漸々に言ひ爲す事の宜しからねばとていたく是を制する時は其制せらるゝ困み」に思ふ事も云ふ事も唯々捻塊るばかりにて才智屈して舒る所以無し、是に於て所謂氣質の用の種と成る幽玄を能く味ふて以て世の人の行ひに大に善惡邪正の顯るゝ證據も亦眼前にあるを見て知るべし才智の増舒と屈る所以十五歳迄は皆此意に做ふ可し

五歳と成りては陽氣總身に滿ち渡る時にして才氣の舒る事も亦盛なる時なり、然れども其才氣は舒る事盛なる耳にして善惡邪正を辨る程の器量にあらざれば人の教も誠も更に心に止まらず唯々己れの發る儘に心の働く耳の頃也」

五歳になるに精神の力も身體の力に伴つて、土臺の固いものとなり張切つたものとなりて來るが、然しまだ張切つてゐるさいふだけで、善まか惡まか、正まか邪まか云ふ判斷の力は充分に伸びては來てゐないのである。隨つて思ふまゝ感ずるまゝ働いて、遠慮氣兼を持たないのである。我々は此の自然の發育の段階を、飽くまで重んじなければならぬが、同時にこの成長が向つて行くべき方向に對しては、たへず指導の準備を持つてゐなければならぬ。

かやうに幽學の幼兒に對する觀方は、其の觀察が正確で

もあり精密でもあつたので、此の點に於ても益軒等よりは、一步も二歩も前進してゐるさ見る事が出来る。が、それよりも一層注目すべき事は、彼は飽くまでも此の自然發達の状態を重んじて、出來るだけ自然のものを自然のまゝにすくゝ、發達せしめようさ企てた點である。隨つて五歳迄の彼の教育的企ては飽くまで内に隠されて、親なり、乳母なり、周圍の者の注意深い警戒が子供に直接にいられないように、それでゐるて内部には極めて眞險に進められてなければならぬさ考へた點である。

一體、天保以後の教育の考へ方の中には、西洋の影響をうけてかなり進んだものが色々の部面に現れたのであるが、幽學の此の考にも幼兒の教育の方面に於て、代表的な進歩主義を見出すことが出來よう。(昭和十四年十月十二日)

### 岩手縣保育研究會

#### (第三回)

##### 一、期日

昭和十四年十一月四日(土)

自午前九時至午後四時

##### 一、會場

盛岡市大澤川原小路泉幼

稚園

##### 一、實地保育

自午前九時至午前十一時  
泉幼稚園ノ研究發表

自午前十一時至正午  
實地保育ノ批評並懇談

自午後一時至午後三時  
視察報告、全國保育關係

者大會狀況

自午後三時至午後四時  
四戸熊藏氏



# 椿の兵隊さん

(風土記から)

東京女子高等師範學校教諭兼教授

石井庄司

二八

豊後國風土記、大野郡海石榴市、血田の條に左のやうな一節がある。

「昔者、纏向の日代の宮に天の下知らしめしし天皇、球覃の行宮に在しき。仍りて鼠の石窟の土蜘蛛を誅はむと欲し、群臣に詔して、海石榴樹を伐り採り、椎に作りて兵とし、すなはち猛き卒を簡み、兵の椎を授け、山を穿ち草を排き、石窟の土蜘蛛を襲ひて悉に誅ひ殺し給ひき。流るる血、蹠を没れき。その椎を作りし處を海石榴市といひ、又血流れし處を血田といふ。」

豊後國風土記の成立年代に關しては、種々の異説もあるが、今日では、所謂古風土記の一で和銅六年の詔によつて撰進されたものといふことになつてゐる。日田・球珠等諸郡の抄本が傳へられてゐる。刊本としては、寛政十二年に荒木田久老の校訂したものが最も古い。今は武田祐吉博士校訂の岩波文庫本に據つた。

此の記事は、日本書紀卷第七、景行天皇の十二年の條にも見えてゐる。鼠の石窟には二つの土蜘蛛がゐて、青さいひ白さいふ名であつたさある。なほ鼠の石窟は、速見郡北石垣村にあつて、大野郡ではないさいふことである。

風土記に、「纏向の日代の宮に天の下知らしめしし天皇」さあるのは、景行天皇のことである。球覃の行宮は、書紀には「來田見の邑」さある。直入郡に球覃の郷さいふのがある。其處のことである。

「海石榴樹」は椿の木で、和名抄には豆波岐さある。「椎」は槌である。「兵」は兵器・武器さいふことで、兵士の謂ではない。「兵の椎」は、兵器たるさころの椎さいふことで、兵隊さ椎さの意味ではない。「蹠」は足のくるぶしのことである。

風土記の記事は、例の如く、海石榴市さ血田の二ヶ處の地名傳説である。地名の出來た所以を語つてゐるのである。さころが此の話の中には、多分に子供向の話の要素が入つてゐる。強敵を攻めるに當り、椿の椎さいふ無生物が大きな勳をするのである。椿の樹或は花は、南方の暖國を

思はせる植物であり、子供には最も親しみのある樹である。なほ椿の木は堅牢である爲、それで権を作る。その兵器としての権が大功を奏することとなる。権は、石窟を破壊するための武器であつたのであるが「山を穿ち草を排きし」といふやうにも書かれてゐて、特別の働をしてゐるのである。原文の「兵は勿論上述記すが如く、兵器・武器の意味であるが、全文の意味からすれば單なる兵器以上の神秘的な働をしてゐるので、子供に話す場合には、兵士、即ち兵隊さん云ふやうにする方が興味があると思ふ。事實神秘的な存在なのであるから、人間の形を持つたものと見た方が、子供の理解を助けることと思ふ。椿の兵隊さん——赤い帽子をかぶり、青い服を来て、劍をさげたといへば、椿の花や葉の模様も髣髴せしめられるのである。

たゞ始めから椿の兵隊を繰り出したといふよりは、何か特殊の事情により、特殊の働により兵隊になつて進むを見る方が面白いやうに思はれる。さういふ點だけを取り出して、子供向に作り替へたのが、次の小話である。原話の精神だけは、何さかして傳へたいものと思ふ。切に大方の御叱正を乞ふ。

## 二

むかし、むかし、ある山の中に土蜘蛛といふ悪いものもが住んでゐました。悪ものの大將は青大將、白大將といふ二人で、大勢の家來を引きつれてゐます。そして鼠の石窟といふお城にたてこもつて居りました。

狭いお城にあんまり大勢の家來が入りましたので、みんなチュチュない、チュチュない鼠のやうに泣いて苦しがりました。そして、大將は、

「チュチュめーチュチュめー」

と號令をかけます。鼠のやうにす早く駆けまはるので、戦争には決して負けたことがありません。

第十二代の景行天皇といふお勇しい天皇が、この悪ものをも退治するためにお出かけになりました。

天皇は大勢の家來をつれておいでになつたのですが、何しろ鼠の石窟といふ敵のお城は、高い高い山の中にあつて、なか／＼攻め落すことが出来ません。

その上敵の兵隊は、青と白かはるがはるいくらでも繰り出してきます。さすがの皇軍もしばらく戦の様子を見合はせることになりました。

或る日の事、天皇は山の麓の椿の木の下で休んでおいでになりました。つや／＼とした椿の葉つばの中には、まつ赤な花がたくさん咲いてゐました。天皇は、この花を御覽になつて、

「このきれいに咲いてゐる椿の花が、みんな兵隊になつて、家來になつてくれたら、よいがな」

「獨り言のやうにおつしやいました。」

そのとき、風もないのにまつ赤な椿の花がびよんご枝から飛び降りたかと思ふに、すぐ一人の兵隊さんになつて、天皇の御前に立ちあがりました。

青い軍服に青い靴、まつ赤な帽子を被つて、敬禮をしてゐるかはいゝ兵隊さんです。

するま、また高い木の枝から、びよんご一つの花が飛んで降りて、かはいゝ兵隊さんになりました。それから、びよん、びよん、びよんご、あちらの枝からも、こちらの枝からも、かはいゝ兵隊さんが降りてきました。青い軍服に青い靴、まつ赤な帽子を被つた兵隊さんが大勢現れてきました。

氣ヲツケ！

右ヘナラヘ！

ナホレ！

番號！ 一、二、三、四、五、六、七、……百、二百、三百、四百、五百……千人もゐます。それから、進めおい！ごんごんく進んでまゐりました。

鼠の石窟の方では、青い軍服に青い靴を穿いたかはいゝ兵隊さんですから、きつみ味方の兵隊だらうと思つてゐる

中に、椿の兵隊さんはぎしぎし、敵の石窟に攻めこみました。そしてかくして持つてきた爆弾や手榴弾をバンくご投げ込みました。悪ものごもは不意を打たれて、チュチュない、チュチュない。逃げろ、逃げろご逃げて行きました。椿の兵隊さんは、鼠の石窟の上に、日の丸の旗を建てました。

そして、みんな揃つて、

テンワウヘイカ、バンザアイ、

テンワウヘイカ、バンザアイ

ご三唱いたしました。

(をばり)

(附記) 「チュチュない」は鼠の鳴聲を擬し、意味は窮乏なること。また困ること。

## 橋本よしぢ女史

橋本よしぢ女史は、過般の第七回全國幼稚園關係者大會に於て、仙臺市保育會長から、同市保育功勞者として表彰せられ、記念品の贈呈を受けられた。慶祝の至りである。女史は文久二年仙臺藩士大津仁右衛門氏の五女として生れた。明治維新家祿返上後の家政

乏しき間にあつて、機業場に働きつゝ、志を立て、仙臺師範學校に入り、明治十一年同校を卒業、直に母校培根小學校に奉職したが、恰かも、其時、同校先輩矢野成文氏によつて、仙臺市に始めて幼稚園が創設せられたのであつた。女史は明治十一年東京女子師範學校（今日の東京女子高等師範學校）附屬幼稚園保姆練習科に入學、同十三年卒業、直に本町通小學校附屬幼稚園保育擔任を命ぜられた。之れが翌十四年公立仙臺幼稚園となつたのであり、女史は實に、その前年から、保姆となられたのである。明治十五年橋本氏に嫁す。明治十九年、東二番町小學校の訓導兼保姆兼務拜命。昭和



七年満七十歳を以て、退職せられるまで、實に斯の途に一貫せられ、茲に、東二番町小學校附屬幼稚園創立六十週年に際し、恰かも同校を會場として開かれた盛大なる全國幼稚園關係者大會の席上に於て、今回の名譽を得られたのである。

女史は十一人の子福者であり、殊に長男寛敏氏は醫學博士（東京聖路加病院内科醫長）次男重郎氏は農學博士（宮崎縣高等農林學校教授兼科長）として令名あり、他の諸氏亦繁榮せられ、二十五孫に二曾孫を惠まれ、母として、祖母として、曾祖母として、まことに申分なき幸福を得てゐられる。當を以て、神の榮へをあらはしてゐられるのである。

（倉橋記）

# 幼稚園と尋常小學校との連絡に 關する資料調査 (三)

東京市保育會

## (五) 學級編成及取扱上の注意

- イ、現在混合組編成の小學校 (五三)  
 ロ、現在幼稚園組編成の小學校 (三三)  
 (内) 校は四年以上が幼稚園組)  
 ハ、不明(回答なし) (二二)  
 ニ、將來混合組編成希望の小學校 (三九)  
 ホ、將來幼稚園組編成希望の小學校 (六)  
 ヘ、不明(回答なし) (三三)

## (1) 混合組編成理由

- 1、園生活をなしたる者の良習慣を利用し他生の模範をなし得る點を考へ且環境上區別せる方がよいと思ふ (二八)  
 2、兒童數の關係上幼稚園學級は困難 (二四)  
 3、家庭の資産關係による區別がいふやうな結果

になるので、それらを考へて混合組をなす

- 4、生年月日による編成なる故 (一〇)  
 5、男女別編成又は體力別編成のため (六)  
 6、現在の幼稚園教育が小學校の基礎教育ならざるため (三三)  
 7、幼稚園に通園せしめてゐる父兄の希望により特に通常學級に編成し、幼稚園生活せる兒童の今後の發展を試験的に調査研究するため (一一)

- 8、幼稚園より來るものを優越的に取扱ふさいふやうに、一般父兄に誤解されぬため (一一)  
 9、差を認めるため (一一)

## (2) 混合組 取扱上の注意

(一) 學習指導上

- 1、優越感をうまく指導する (七)
- 2、幼稚園出の子供を見定めてリーダーにする (六)
- 3、授業中無暗さ発言し、又意見を發表して學習の妨ぎならぬ様注意する (一一)
- 4、學習態度を養成すると共に落ちつかせることに注意する (一二)
- 5、特に進んだ知的能力の發揮に努む (一一)
- 6、幼稚園生活を意義あらしめるため、合科的取扱をなす (一一)
- 7、幼稚園で教へられたことの發表に努めて學習に興味を持たしむ (一一)
- 8、幼稚園のよい點を利用し級の向上につとめる (一一)
- 9、自由の多い幼稚園教育を受けた兒童に比較的規則正しい學校生活に入る心持ち態度に注意する (一一)
- 10、一般教育方針の立場から個人指導に重きを置くのみ (一一)
- 11、一般兒の缺陷もあまりせめず、幼稚園兒の美點をもあまり賞さない (一一)
- 12、一般兒が幼稚園兒に壓倒されぬやう、又一一般兒の學

習に妨げぬやう注意す。

(二) 訓練上

- 1、他生との調和をはかる (七)
- 2、一般兒をあなごらぬやう、又いばらせぬこと (七)

- 3、出過ぎぬやう物なれた點を善用す (五)

(三) 環境上

- 1、學校生活に興味を持たせる (三)
- 2、急激な變化を與へぬ様 (三)
- 3、教室内の兒童の排列に注意す (一一)

(3) 幼稚園組編成の理由

- 1、一年乃至二年間に於ける幼稚園生活を尊重し、其上に、より價值的な義務教育を建設する目的で特に幼稚園組を編成す (一一)

- 2、幼稚園出身者が或る特別な傾向を(善惡の)具備するにすれば、取扱上混合組にあらざるを可きす (一一)

- 3、保育を受けしものが相當數に上る時は幼稚園組が可、但低學年のうちのみに (一一)

(4) 幼稚園組取扱上の注意

- 1、日常の訓練指導を以て第一的となす、保育を受けたるもの學校に慣れきつて、整理、整頓等遅く規律

が正しくない、學業、指導は比較的樂なれども、毎年一、二名變り種の子供がある、家庭との連絡は幼稚園から來たものは理解あつてよろし (一一)

2、現在、幼稚園は小學校の基礎教育にあらざる事を思ふ時、特別幼稚園だからといつて特殊教育をする必要もないと思ふが、幾年か訓練された事を無駄にせず伸して行きたいと思ふ。 (一二)

3、一般學級は家庭の延長として、學校に慣れさせる必要があるが、幼稚園組は大體學習態度が出來て居るので、直に學習生活に入ることが出来る (一三)

#### (六) 個性觀察簿

イ、1、個性觀察簿を受けし學校 (二二八)

2、同 受けざる學校 (二三三)

ロ、1、大いに役立ち利用せし學校 (二一八)

2、利用せざる學校 (二四)

#### (一) 利用せし理由

1、入學當初子供の性格の大體を知る事が出來、訓練學習上の便宜が多い。 (二〇)

2、幼稚園時代の子供程、純真なものはない故に、各兒の性格はよく現はれて居ると思ふ故に、個性觀察簿を尊重、但先入主にならぬ様注意す (一五)

3、新擔任として大いに役立つ、特別の性質家庭の事情等 (一九)

#### (2) 利用せぬ理由

1、擔任指導が入學前に個性を聴取して先入主を作ることは如何かと思ふ、變化ある時代なれば白紙にて臨み、巨細にわたつて觀察すべきである (二三)

2、一月末に幼稚園に於ける個性觀察を小學校に於ける個性觀察を照合せて探長補知すべきである (二二)

3、個性觀察の如きは抽象的 主觀的になり易い、此時受持一人の觀察よりも二者の觀察の綜合が適當である。 (二二)

4、如何なる變動を及ぼすものか、研究中なり (二一)

# 本園の綜合大運動遊具

私立長崎市玉子の幼稚園設立者兼園長

荒木嘉弘

全國各地に互り、私が幼稚園並に托兒所合計百五十ヶ所の見學をさせて頂きましたのは、早くも滿十年前の昭和四年夏より、約半歳の事で、昭和九年二月現在地に移轉する前、昭和五年二月一日、現在地の東北三丁餘の立山町に創立開園し、今日に及んで居ります。

當時、運動場の大小廣狭、形状も亦種々様々拜見したのでありますが、ごちらの園も運動遊具の設備の必要缺く可からざるものであり、事情が許すなら一個でも多數設置したいがご、申される所が多くもありましたし、又私もその必要を感じ各地各様の運動遊具の形状、構成部分の大切さ思はれる箇所を特に留意して參觀し、寸法、用材、經費等に互り、調査研究をなしたのでありますが、愈々本園に設備するに及ばず、仲々容易でありませんでした。創立以來滿九ヶ年間本年一月まで本園にて苦心研究して作製し設備しました種々の運動遊具について、その内、今回は主として屋

外用のものの変遷の過程を記します事は、此度本題の綜合運動具設置に到るの道程として各地、幼児保育關係諸賢に聊かの御参考になりますれば幸甚の至りです。

昭和五年二月開園當時

敷地八十坪 園舎五十坪、運動場二十坪

園兒數六十名 職員三名

設備一、粹登付迂り臺 一臺

木製、迂りの長さ三米

二、ブランコ 一基

木製 二人乗

自昭和六年四月より至七年三月

運動場を四十坪に 砂場四坪

一、粹登付迂り臺等前掲の外

二、ブランコ

三、シーソー

四人乗増設

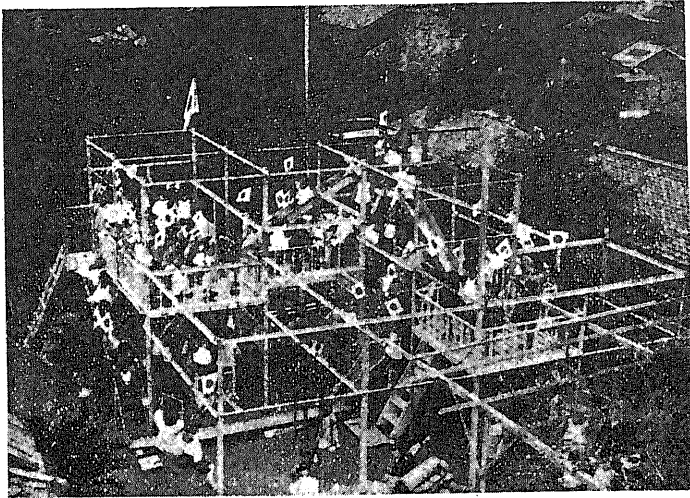
二基増設



自昭和七年四月より至昭和九年二月

四、回轉椅子

一基増設



此の眞窟の三月八日現在その後の増築改廢致し地面一面ば  
 此の砂利を敷きつめて履上のまゝと内室とに接続せしめば  
 (長崎要塞司令部許可済) 。して居るす。

自昭和九年二月より至十四年一月

現在地に移轉

數地三百坪、園舎二百坪、空地約百坪

園兒數百二十名職員五名

設備 一、桮登付の臺前掲同様一基の外

二、ブランコ

四人乗 三基

三、シーサウ

長二米 四基



形角三式せ合組互相



型キリト

用して参りました。

一、右の内ブランコ全部鳥居形支柱を採用したもの、三角形相互組合せ式支柱に取換へ三基 八人乗さなし  
 二、飛行機 長さ四米高三米翼長さ三米 幼兒二十人乗りプロペラ回轉し得るもの乗降は桮登式によじ登らせるもの一臺を設備 砂場八坪  
 右の如き様子でありますので廣い駆け廻る場所が多いのですが、幸ひ僅々幼兒の團體でも五分間で市立の(諏訪)公園が東にあり西に數分にして千坪近き丘陵地の忠靈塔ある運動場がありまして之を利

四、遊動木 長四米 一基

五、廻轉椅子 四人乘 一基

六、木馬型移動具 二人乘 二基

七、大型箱形ブランコ 二十人乘 長三・五米幅一米 一基

八、船底型十五人乗ブランコ鐵製 一基

之は吊り金具三米の高所にあるため、ゆれ方大きく愉快なもの

九、椅子ブランコ四人乘 一基

同 二人乘 二基

一〇、飛行機(旅客機型)

長さ五米 高さ三・五米

翼長さ四米 三十人乗り

回轉プロペラ付とし之は内部に仕掛けた把手を年少兒でも容易に廻し得る様に乗降も亦不安なく容易である様後部に階段付

一一、砂場十坪

砂場は藤棚を作り全面に被せ一昨年より開花し初め本年は相當多數開花しました。

右の設備は殆ど私が人手を借りる事を少くしむしろ雇つた大工の如きも手不足を手傳はせる程度にて、朝夕の時間と休日等を利用して、その手入れも増改廢工事に當て、殊

に毎年二、三月になります。木材の部分は改造も簡易な爲取換へを行ひ金具の改造、吊繩の各種類の研究、幼兒に使用せしめた上に現はれる缺點の補ひ、極力使用度の低下を防止して来たのでありますが、維持の上に手數と經費を要したのであります。

本年に入つて、かねて考案を練りつゝも實行に到らずに居ました綜合大運動具を作製設備し、工事終了の上は試用して後缺點不備等も相當に現はれ又、良き考へも浮ぶであらうから更に一ケ年をその實際的研究期間として、改廢も行ひ昭和十五年意義深き創立滿十ケ年を迎へる可く一月十五日着工したのであります。

綜合大運動遊具の構造の概要

機體は地面十六坪：柱の建つた四方の隅より隅への計測

上段七坪：之は枝張にて三坪宛三ヶ所並下なる

部分二ヶ所主柱：鐵材高さ四米屋根なし

梁桁：鐵材

内容

一、迂り臺 總鐵製 迂りの長さ三米手スリ付上段に二

ヶ所、下段に二ヶ所何れも迂り板の上部は圍付下方の

迂り止りの部分も安全停止裝置

取付取除き自由自在、位置の變更も出來ます。

二、大型ブランコ周圍テスリ付二十人乗り良質堅木製

一基

三、ブランコ一人乗り各桁に取付得らるゝ様組立てたので 十ヶ所

四、椅子付年少兒向きブランコ二ヶ所鐵製

五、角型、丸型止り杵 二ヶ所

之はブランコもなり、回轉もします。

六、杵登り一ヶ所面積一坪、高三米上部は鐵製アーチ式

交叉テスリ付

七、階段 よじ登り式二ヶ所、普通板張り階段二ヶ所

八、附屬接續藤棚と砂場

地面十三坪の内十坪は砂場、三坪は機體との連接部で

此の部分にもブランコを取付けたり外したり使用量も

比較的大です。

全面を藤棚とし鐵丸柱を使用、藤は四ヶ所より、砂場

の上部は勿論、機體の上部全體に被はせる爲そのかづ

ら支へも鐵材を主とし地面よりの高さも三米半としま

した、來年は全面に延び擴がる見込であります。

體位向上報國の國策線に沿ひ屋外にて遊ばせる工夫

罹病率竝に死亡率高き就學前幼兒期を、成るべく屋外

にて遊ばせ、日光浴と風浴の機會を多からしめたい爲

に屋根を用ひてゐません。

炎暑の候等 日光の強烈な直射を避ける様に前に申し

ました藤を四ヶ所より伸し、萬年天幕をなし、從來、布製、竹製、籐製等にて破損腐蝕甚だしい苦い經驗を解消しました。

通風採光

通風と採光に留意し壁は一ヶ所もなく、見透しも採光も充分、空氣は、市の商業街よりもやゝ高所にあるため比較的車馬の往來もなきたため清澄であります。

(園醫の證明あり)

使用効力が時間的にも大なる事

イ、寸時も活動を停止する事なき幼兒に出来るだけ室内遊びより屋外への誘導に努めその目的に沿ふ様、降雨中は勿論使用しませぬけれど、一度降雨止みますと、數分を出でずして、直に全部使用し得る様排水の方法を講じてゐます。

ロ、一時に多數遊ばれる事であり、同時に百名以上遊ぶ事が出来、砂場を加ふる時は現在園兒百五十名全部同時に各自各遊具に付て遊ぶ事を得ます。

ハ、上段の活用極めて廣範圍であります。

例1、青天井の下、同時に五十名の園兒が晝食辨當も開かれます。

例2、ママゴト遊び、お客様遊び、小型積木遊び等自由であります。

例3、炎暑の候も人工品天幕を用ひずとも極めて涼しく幼児の午睡にも最適でありました。

例4、二人乗椅子ブランコ等設備取除きも出來ます。

### 構造の變更自由自在

現在組立構成の形狀を例へば東にある迂り臺を西に、北にあるものを南の方へ、中央にあるブランコを東北隅へ迂いふ按梅に組立ての變更が出來得る様に考慮しました従つて、全然機體全部の位置變更或は幼稚園の移轉等起りまして無疵に解體出來る様、鉸鉸を用ひず全部螺旋釘を用ひ防錆劑を施してゐます。

又支柱も地面接觸部は地下に埋めてコンクリートを行はず、他の動搖防止の方法を工夫研究して施工して居ります。

### 機體は頑丈に 手入れ容易に

幼児の、前後を考へず使用する用具は此の運動遊具に限りませず、意外に破損磨滅が起りますが、此の度は、丈夫に丈夫に之の考へを念頭に置き、成人の使用にも耐ゆる様大型ブランコの如きは鐵製金具にて補強工事を施しブランコの吊手は又鐵製くさりに致して居ります。

支柱、梁材桁材及び迂り臺は全部鐵製でありますから、年二回のペンキ塗り替へを以て防錆法となり、木材部のみ一年乃至二年以内に、腐蝕又は破損で取替へますにも、

支柱が残つて居りますので、工事も簡單に運びませう。一時的に非ず、半永久的に使用する爲には、手入れ注油が困難では使用率も遞減しますので

殊に注油を怠りますと、摩擦の甚だしいブランコ金具の如きも、改造を加へましても、損傷が甚だしいのですから婦女子にても危険を伴はず、容易に注油し得る様組立てました

### 傷害未然防止のため 細心の注意

負傷は絶対起らせたくないのですが、不慮の災難も未然防止に努め勿論現在の型式を以て満足すべきものではありません、改廢の餘地は多々、起りませうが、各部分共に細心の注意を以て此の工事終了し、七ヶ月の日數にすぎませんが、幸ひ、之云ふ負傷者も出でず喜び居る次第であります。

### 連接砂場について

屋外遊び中では危険性最も少なく、比較的病弱なる園児にまで喜ばれて遊ばれる砂場も、十坪では左様に多數同時に遊ぶ事が出來ませんのを遺憾に思つて居りましたが、少くとも十坪に二十數名同時に遊ぶのをその二倍以上の園児が遊ばれる様に之を平面的のみ使用され勝ちの砂場へ六ヶ所六個六様の砂入れを作製し人數的の目的は達しましたが短日月でありますので今後に缺點等も現はれ

改造の要も起りませうが現在は相當喜んで遊ばれて居ります。

砂場に使用の玩具も過去の淺い乍らも經驗より半永久的な鐵製を此處數年來使用し來つたのでありますが、破損なく從來の竹製、木製三種々工夫しましたものよりも却つて經濟的にも良い様であります、その形狀はトンネル形鳥形富士山形魚形舟形等で、或時は一、三ヶ月も砂中に埋まりつづけ發見されぬ場合も木製の如く腐蝕せず、健在でありました。

#### 此の綜合運動遊具の使用狀況

工事終了後滿七ヶ月此の間園兒の使用狀況を記して見ませう。

降雨なき朝、元氣に登園して、帽子や辨當等を夫々置きますすすぐ外に出て先づブランコ(一人乗)に行く者が大多數です。

中には、最も高い所は上段の迂り臺の上部になる櫓になる所、之より西向に北向きに迂り臺が走つてゐますが、その高い所に立つてお山の大将氣取りで次々に登園する友の名を呼んでは愉快相であります。

四五名集りますすこ、大型箱ブランコに群がります、砂場は常に多數の園兒等に親まれてゐます、職員の一入でも上段に上りますや、群り集り園兒で職員に行く先きが

滿員、超滿員です之は皆様の御同様既に常に御經驗あられます幼年心理の動く一風景で御座いませう。

中食時に上段を使用する事を先に記しましたがその時の幼兒達の喜びは大變なものです、嫌いだ云ふ者を見當らない様です。

椅子付ブランコは、殆んど休んでゐる間はありませんが、外の一人乗ブランコも滿員が多いのです。

箱ブランコは常に十人位で大波の上の船の如く力の限り、全力を入れて揺つて居る幼兒の姿がいさ頼母しくこんな子供は比較的健康で缺席も少ない者が多い様です。

枠登りはブランコや迂り臺程には使用しませんが、鬼ゴッコでも初まりますすこ全機體の上段三四つの迂り臺を入れて仲々面白く追ひつ追はれつ致して居ります。

その他の附屬した用具は毎日はずけませす週に二日か三日取つけますがその折りは良く使つて居ります。

階段は普通、板張りのものが安全に見かけますが、幼兒は、よじ登り式の建築用ハシゴ式の方を多く使用しますやうです、年少兒の女兒も之を好む傾向があります。

一人乗ブランコの地面から腰掛面までの高さを色々十個共異にして居りますが、初め最低のもので使用してゐる内段々高いものを一般に好みますから最近一學期を終了してゐますので何れも十纏以上吊りあげて居りま

す。

以上を以て、本運動具の概要を記したのでありますが之は本年夏、倉橋惣三先生が長崎へ保育講習の講師として戸倉はる先生方と御來崎あり御歸京の後、編輯部へ御話ありし由で、今日編輯部よりの御依頼をうけましたので、次の點を熟慮の上掲載して戴く事にしたのであります。

一、都會地の人家周密の地で、充分運動場の得難い場所ので立體的に面積を利用する事に苦心しました。

二、前に申しました様に、修理手入れと大層手数を要しては、使用量が低下し、引いて、楽しく遊び得る園児を常に失望せしむる事を少くする様に工夫した構成を知つて戴きたいために

三、ブランコ用金具の如き園児或は大人にしても振り動す爲に外れて負傷を誘發する様な事なき様新しい工夫のものを取付け、吊手の材料や形状、取扱ひには、簡易と變化と經濟的等考慮し

四、保存方法等も考慮しましたものです。

斯かる考へから拙文乍らも、此の好機會を興へられた事を感謝して、御來園下さつて御覽下さる方に、小生が一々御説明申しあげる時の様に委しく記したのであります。

(四四頁より)

る様な場合にでも「いけません」「よしませう」「おかしいわ」その他いろいろ用ひられておりませうが「いけません」「云ふのはさうしても強くひやく言葉で突差の場合には餘程注意しないさ必ず出る言葉でせう。」「よしませう」はそれよりもずつとおだやかで命令的な意味は少しも含まれてはるません。「おかしいわ」はその子供が間違つたことをしてゐておかしいさいふことが自分自身で氣がつき、はづかしい早く止めやうさいふ様な心持をおこさせることが出来るでせう。正しい言葉つかひと共に、正しい發音ではつきり、云ふ事も大そう大事なことでせう。お話をする場合や本を読む場合なき特に或程度大きい聲ではつきりかかせる事が必要でせう。

以上まことにつまらぬ事を記しましたが兎に角私達は慎重な心もちで日々あの幼い者に接してまゐる様に心がけてゆきませう。

# 仙臺二日

倉橋生

十月七、八兩日に亙る仙臺の全國幼稚園關係者大會は、極めて盛會であつた。私は主催側の豫めの準備を、當日の斡旋の、容易ならざる苦心に、深い敬意と謝意を禁じ得なかつた。たゞ、此の計畫の眞の中心であつた仙臺市保育會長澁谷仙臺市長が病氣のため、會場に臨まれなかつたことは、最も遺憾であつた。會は満場一致を以て、同會長邸にお見舞ひの代表者を送つたし、私も亦、同邸を訪ふて敬意を表したが、會長もしても、親しく此の盛會を見ざることを遺憾させられた。しかも會長代理としての高橋市助役の議長振りの巧妙さは、全會員の感嘆せるところであり、會議の滞りなき進行は一つに、名議長の力によつたといつてよい。但し二階堂市學務課長、加藤市視學、石川校長、その他、保育會幹部の内部的努力の大であつたことは言ふまでもない。

全會員の熱意、之れ亦實に快いものであつた。相當活潑なる發言、討論を大太鼓として、全體のなごやかな階調は、

四二

一つの立派なシンフォニーでもあつた。殊に、研究發表は、一つ／＼傾聴すべきものであり、わけても、保姆諸君の眞摯なる研究發表こそ、此の會の貴重なる内容をなしたといつてよい。たゞ、遠慮なき所感を許されるならば、東北地方色の濃い問題の少なかつたことは、少々物足りなかつた。全國的會合として、必ずしも地方色に偏すべきではないが、折角く初めて東北に開かれた保育大會として、之れは私だけの物足りなさではあるまい。その間、青森幼稚園の今きよ氏の雪國幼稚園の工夫に就ての發表は、最も貴重なるものであつた。

但し、地方色の濃くなかつたのは、考へて見るに、その大きな理由となるものがあつたのである。それは、地方感なきを超越する現下の時局が、その大なる意識を以て、全體を支配してゐたのであつた。すなはち、平常保育問題以外、時局に即する保育問題が、會の主要部を占めたのであつた。之れは素より、然かるべきことであつた。

さて、此の大會によつて、將來に豫約せられた二つの事項がある。一つは、通常は四年後に開かるべき、次回の全國幼稚園關係者大會が、皇紀二千六百年を祝して、來年即ち昭和十五年に於て開かれることである。その主催は關西聯合保育會、期日は五月乃至六月、開催地は檀原といふことになつた。その盛觀期して待つべきを思ふのである。豫

約の二は、仙臺市保育會の提議に基いて、全國的保育聯盟の結成を進めるために、東京に於て先づその準備に當るさいふこじであり、委員會の結果、東京側出席者は、全會の依任を受けることになつた。之れはなか／＼容易のこじではないやうであるが、その成功を希望して已まない。

會議の他、第一日に於て仙臺市内見學の案内、市長招宴席上の地方舞踊、第二日の松島、鹽釜の廻遊等、懇切なる接待に到らざるなく、我等は皆滿腔の謝意を以て、仙臺二日の秋晴を浴びたのであつた。私は依囑によつて、短い講演を試みたが、壇に登つて、先づ感慨にたえない語つたものは、今日、二千を越ゆる全國幼稚園数が大正四年此の全國幼稚園關係者大會の第一回を東京に開催した時、六三三に過ぎなかつた思ひ出であつた。

帝國の幼稚園に益々飛躍的進展のあらんこじを。

さて、土地は仙臺である。幼兒の愛育者の集りである。さうしても、名保母政岡の禮讚が語られなければならぬ筈である。私も講演の中で是非それに觸れたいと思つてゐたが、會議題の豊富のために、講演に豫定せられてゐた時間が半分に壓縮され——それは却つてよくもあつたけれども——政岡の保育に敬意を表する時間の無かつたのは、一寸遺憾であつた。政岡の名は、たゞもう烈婦さいふこじで覆はれてゐるが、それは、あの時の四邊の情勢に對する覺悟の點であつて、幼君鶴千代に對する態度は、一つに之れ懇

切周到腰々たる保育者であつたのである。藩侯の若君さまさいふ點では、一念忠節の心であつたのではあるが、自ら手振りして雀の歌を唱歌し、雀を集めて觀察し、幼兒千松と共に嬉戯せしめたのは、幼兒保育に他ならない。殊に自ら米を炊いで給食のこじにまで當つたのは、普通の幼稚園の保母諸君の及び得ざる貴い生活保育である。芝居の舞臺に參觀する、あの日の保育は、甚だ悲痛に過ぎ、保育以上の深酷感を以て、われ／＼を壓倒するが、その烈婦的態度のみが、政岡ではない。一般の觀客は、節義政岡の心強さを認めざるが、私なごは、保母政岡の心もちのやさしさを泌々感ずるのである。又、ヘタ役者は、政岡のキツイまごころばかり表現して専らりきみかへるけれども、上手の役者は強い中の優しさを、巧に表現する。さうでなければ名優ではない。兎に角之れは外からの解釋を俟ち、役者の手腕を俟つまでもなく、幼兒鶴千代に尋ねてみれば、必ず分る事である。節義な烈婦ですか聞いてみても、いゝえ、やさしい乳母じや、このみおつしやるに相違ないであらう。

わたくしは、仙臺市保育會が、大會席上で政岡を表彰しかつた事に抗議はしない。しかし、仙臺に集つた保母諸君が、殊に保育會から案内されて政岡の墓に詣でた保母諸君が、彼の女を幼兒保育者として敬仰して下さるこじ私さ同じでなかつたさしたら、聊か不満にたえないであらう。少くも若しさいふ人が幾人でもゐて下さつたら、政岡の郷土での保育大會に一段の意義があつたさいふものであらう。



# ことばづかひ

四四

附屬幼稚園 小島 その

幼い者の耳に入る言葉ほど大事なものはないでせうと考へます。言葉ゴトバといふことがありますが、昔の人が言葉を尊んで靈があるとしてゐたことは本當にゆかしいことである様に思はれます。言葉にたましひがあるにしてもないにしても、耳から傳つたもの、耳から入るものゝその人に與へる影響は本當に大きなものでせう、特にあの小さい子供におきましては猶一層そうであることとせう。

「馬鹿野郎なごさいふ言葉が口から出るご、それが相手の人の耳に入つて行つた時、その相手の人は本當にその言葉の様な人になつてしまふ。」とか「ものを云はうごする時は、一度その事を口の中でくりかへして云つてみて、よく考へてから云はなければならぬ。」なごさい時からよく母に教へられたことですが、今こうして澤山の大切な子供を預つてみますご、幼い者に對する言葉はおろそかに出來ないものである事をつくゞ感じる様になりました。

私達がいつでもよく注意された言葉づかひで子供に接す

るのご、その時々々の氣分のまゝに何の考へもなく言葉を發するのごでは、長い間に澤山の子供に與へるその違ひは大變な事になるでせう。たごへごの様に急を要する言葉を發しなければならぬ様な場合にでも、決して強い言葉を發したり、邪険な云ひ方をしたりしないで、そこに充分やはらかみのあるやさしい言葉づかひが自然に出る様になつてゐなければなりません。同じ「……しませう」ごいふ簡単な言葉でも、強く云ふのさやさしく語尾も弱く云ふのごでは随分感じが違つて來ます。又小さい時から正しい言葉を耳から入れてやり度いご思ひます。例へば「チャツタ」ごいふ様な語は私達は用ひない様に正しく「シマツタ」ご云ふ様に心がけなければなりません。「イヤンナツチャウ」なご書いてみるご全く驚く様な國語が平生平氣でつかはれてゐるかも知れません。投げ出したまゝでしまりのない言葉づかひは子供の耳に入つたならごハラ／＼します。又何か止め

# 雜報

## 全國兒童保護大會

全國兒童保護大會は、中央社會事業協會及び恩賜財團愛育會共同主催の下に、十月十二、十三、十四の三日間東京に開かれた。

第一部、家庭強化並一般兒童保護、第二部、環境缺陷兒童保護、第三部、疾病虛弱兒心身缺陷兒童保護、第四部、軍事援護の徹底並兒童保護體制の整備の四部門に分れ、各々豫め各部専門委員と各部幹事とに於て、討究協議したるところを以て、中央案とし、之れに各地方よりの提出議題を交へて、總會に於て整理し、極めて盛會裡に、極めて實質的なる會議を完了した。此の中、第一部こそは最も直接なる關係を、本誌讀者諸氏にもつところの條項であつて、左の諸項が熱心に採り上げられた。

### (イ) 家庭強化

家庭強化に關しては人的資源涵養の見地より兒童養護の完きを期する爲特に左記

事項を實踐するの要ありと認む  
一、兩親の教養

A、幼稚園、保育所、健康相談所等を中心として家庭に對し兩親教養の方法を普及強化すること

B、社會教育並社會教化の各機關其他

産業組合、町會、部落會等に對し兒童養護を目的とする兩親の教養上一層の協力を求むること

C、各學校に於ては其の學生生徒に對し兒童養護に關する教育の徹底を圖ると共に兒童養護を目的とする兩親の教養機關を附設する様制度を改正すること  
D、學校に於ける家事衛生教科書を改訂し家事科専門教師の養成機關を擴充すること

### 二、家族の保健

A、一般家族に年一度健康相談を勵行せしむること

B、國民健康保險組合、保健所、健康相談所、保健婦等を急速普及すること

但是等の施設に於ては父兄の教養に對し併せて充分なる方策を講ずること

C、結核並性病豫防並治療施設を擴充すること

D、營養指導並營養品の供給施設を普及すること

E、醫師、產婆、看護婦等に對し社會保健事業に一層の協力を求むこと

### 三、家庭制度の改正

家庭に於て兒童の養護に遺憾なき様(老人の保護と共に)民法親族篇其他の關係法令を改正すること

### 四、多産の奨励及保護

A、適齡結婚並優生結婚を奨励すること  
B、社會保險制度の整備、家族手當制度の創設其他多子家庭の經濟援助並其の生活指導方策を確立すること

### 五、家庭の強化組織

家庭の強化に關し集團機能を發揮すること肝要なるを以て都市に於ては町内會(又は同業組合)町村に於ては部落會等の組織を強化活用すること

### (ロ) 母性並乳幼児保護

時局下に於ける母性並乳幼児の保護は乳幼児の死亡を防止し以て人的資源涵養を圖る根本對策上最も喫緊事たり。

依て從來の各種保護施設を夫々強化するは勿論必要なるも特に乳幼児死亡率低下を期し、體位向上に資すために左記事項を急速に實現せんことを望む

妊産婦並乳幼児の保護上必要なる物資の確保  
 時局下各種の物資の缺乏及之に伴ふ配給統制に依り國民保健上甚大なる脅威を受け或は將來受けんとする状態に鑑み特に妊産婦並乳幼児に對してはその保健上必要なる物資就中榮養品(牛乳、砂糖等)の圓滑なる配給を受けしむるやう關係大臣に建議すること

二、妊産婦並兒童の綜合的保護機關の設置及普及

イ、母子健康相談施設

- 1、所定の期間に於て必ず乳幼児の健康診断を受ける義務を負はしむべき制度の確立を期すること
  - 2、從來の小兒保健所、兒童健康相談所、妊産婦健康相談所等の施設を整備強化しその普及徹底を期すること
- 尚本施設に於てはA、乳兒及兒童の

健康診断B、保健婦に依る巡回訪問  
 C、牛乳其他榮養品の配給D、妊産婦の健康相談E、其他必要なる施設等をなす。

3、本施設を一定地域内に於ける妊産婦並兒童の綜合的保護機關の中心となすこと(四のロ「相談施設の連絡機關(参照)」)

4、農村に於ては下記「農山漁村の隣保組織」(ハ)に之を含ましむること

ロ、保育施設

1、各市町村並工場、鑛山に一定数の保育所を設置すべき法制を定むること

2、特に三歳以下乳幼児保育機關の普及を計ること

3、保育所に於ける設備の標準制定、家庭訪問、保育相談等の徹底その他土地の事情に依り保育上の改善に力むること

4、農村に於ける諸設備は特殊事情あるに依り「農山漁村の隣保組織」(ハ)に含ましむること

ハ、農産漁村に於ける綜合施設

町村全體が隣保福祉の精神に基き家庭内の母性並兒童の養護を計る目的を以て該町村内婦人團體員を動員し部落内に各分擔家庭の定め常時受持家庭の訪問を爲し全村の妊産婦並乳幼児の保護教化を計る組織を結成すること

同組織は保健婦及保育婦を置き醫療、教育機關等の指導のもとに婦人團體員等と協力して巡回訪問、助産看護用具の貸與等をなさしむ尙本組織に依り町村内一般の母子愛育に對する教化をなし或は季節土地の事情等に依り前項の諸施設其他必要なる事業を行ふ

右組織は乳幼児死亡率高き地方より普及せしむること

三、就勞婦人保護

就勞婦人就中工場及鑛山に於ける就勞婦人保護のため次の施設を講ず

イ 定期的健康診断勵行による過勞並疾病の早期發見及手當

ロ 榮養食並共同炊事の普及

ハ 不適性勞務の検討並廢止

ニ 保險監督官、相談機關その他綜合的保護慰安施設の設置

#### 四、連絡機關の設置

- イ、中央及地方に前項諸施設「二のイ、ロ、ハ」ノ連絡機關を夫々設置する様制度の確立を期し事業の普及徹底を計ること
  - ロ、特に健康相談施設の個々の連絡を計るため一定地域内に強力なる機關を設け次の事業をなさしむ
    - 1、相談所と家庭との連絡
    - 2、相談所と開業産婆との連絡(五のロ「産婆の再教育機關」の項参照)
    - 3、各種施設との連絡
    - 4、地區別の連絡會開催
    - 5、相談指示事項等の統一
    - 6、其他必要な事業
- 五、養成機關の設置
- イ、保健婦、保育婦の養成機關を速やかに設置普及すること
  - ロ、開業産婆に育兒知識及社會保健的教育を施し一定の資格を與へて前項の健康相談施設に附屬せしむる機關を設くること
  - ハ、醫師、看護婦及産婆をして母性並乳幼児保護に充分の協力をなし得る様そ

#### の教育機關の改善を計ること

- ニ、保健婦、保育従事者の再教育機關の設置及養成機關の改善を計ること
  - (注) (三)「健康相談施設の制度」(イの「保育施設の法制」)(ロの「一」)
  - (四)「連絡機關」
  - (五)「養成機關」
- 右に關しては第四部と協議すること
- (一)學童保護
  - 一、學童保健
    - A、各小學校に専任學校醫、専任學校齒科醫、學校衛生婦を設置することとし之を制度化すること
    - B、給食施設を普及徹底すること
    - C、學校衛生婦養成並再教育機關を設置すること  - 二、校外指導並青少年の訓練指導
    - A、兒童遊園、兒童映畫館、日曜學校其他校外に於ける兒童保護施設を普及し學校との聯絡提携を圖ること
    - B、校外指導委員を設置すること
    - C、勤勞奉仕の風習を振作し年齢、體力、性別、地方事情等を斟酌して劃一的に流れず其の精神の組織的實踐を徹底すること

#### 底すること

- D、隣保事業、餘暇指導施設を普及充實すること
- 三、學校又は職業の選擇指導

  - 學校選擇又は職業選擇の指導機關を増設普及すること
  - 四、就勞少年保護

    - A、就勞少年保護年齢を検討し就勞年齢の合理化を圖ること
    - B、就勞少年の幹施保護機關普及に之が行政機構の整備統一を圖ること
    - C、十八歳未満就勞少年の特別保護法を確立すること
    - D、定期健康診断の強制實施並衛生思想の普及徹底を圖ること
    - E、就勞少年の住居並保護慰安施設の整備擴充を圖ること

  - 五、兒童保護委員制度の設定

    - 兒童保護にケースワークを採用し保護の徹底を期する爲兒童保護委員制度の設定を必要と認め依つて第四部其他適當なる部所に於て之が設定方取計はれたし

(記者)

# ハイディ

(第十九回)

津田芳雄譯

ハイディはお医者様は、それからまた長いこゝろ話しながら山をあるき、お別れの時が来てもハイディはなかなかお医者様を離さなかつた。お医者様の手を引つ張りながら、山羊の一等すきな草の生えてゐる所や、夏お花が一等たくさん咲く所や、おぢいさんに教はつたお花の名前なごを、いちいち教へてあげた。いよいよお別れする所まで来るに、ハイディはお別れのあいさつをしてからも、ぢつと見送つてゐた。いつお医者様が振り返つて見ても、ハイディは同じ所に立つて、手を振つてゐた。さうだ、昔、わたしの娘が、ちやうごかうして見送つてくれたものだつた。——お医者様には又しても思ひ出がつきまふ。

よく晴れた秋日和がつゞき、お医者様は毎朝小屋まで訪ねて来ては、山へのぼつた。樅の木が亭

々々聳え、その枝には猛鳥が巢喰ふ高い峯々へ、おぢいさんはお医者様を案内して、珍らしい植物や動物を見付けては、その習性や用途をすばらしく精しく説明するので、お医者様は大層よろこんで、別れぎにはきつこ、

「いつもいつも貴重な珍しい御教示にあづかりますなあ」

とお禮を云ふのだつた。

又、特別お天氣のよい日には、ハイディもいつかの所に行つて、讚美歌や、ハイディ獨特の面白いお話を聞かせてもらつた。ペーテルは少し離れた所におさなしく坐り、もう決してせん様の腹を立てたりしなかつた。

九月も末のある朝、お医者様はいつもより元氣のない顔で小屋を訪ねた。今日きりでフランクフ

ルトへ歸らねばならないが、せつかく馴染みになつたこの山にお別れするのが辛い云つた。おぢいさんもハイデイも別れを惜しみ、殊にハイデイには、こんなに毎日仲よしになつた先生を、急にお別れしなければならぬといふことが、さうしても呑み込めず、不意を打たれてぼかんとしてお医者様の顔を見つめてゐた。お医者様はいままで告げて、ハイデイに途中まで送つてくれ云つて、手をひいて一緒に下りて行つた。しばらく行く立ち止まり、ハイデイの頭を撫でながら云つた。

「さあ、もうこゝでお別れしようね。フランクフルトまでも連れて行けるのださい、んだだけねえ」

フランクフルトの有様がハイデイの眼の前にまざまざと浮んで来た。果てしなくつゞく家の列、石の街、おまけにロッテンマイアさんやティネットの顔まで見えて来たので、ハイデイはもちもちしながら云つた。

「先生が又いらして下さいな」

「さうだ、その方がいゝね。ぢや今はお別れしよう。さようなら、ハイデイちゃん」

ハイデイはお医者様を握手しながら顔を見上げ

るを、やさしく見下ろしてゐるお医者様の眼には、涙がいつばいたまつてゐた。切り裂くやうに身を離し、お医者様は坂道を下りて行つた。

ハイデイは身動きもせずに見送つてゐた。涙のいつばいたまつたあのやさしい眼が、深く心の底までしみ透つた。急にわーつと泣き出す、遠ざかつて行くかげを追つて、一生懸命に駆け出した。切れ切りに

「せんせい、せんせい！」

と叫びながら。

お医者様は振り返つて、子供の追ひ付くのを待たつた。ハイデイは顔ぢやを涙でぐしょぐしょにして泣きじやくりながら、

「今すぐ先生をいつしよにフランクフルトへ行きます。いつまでも先生をみますわ。おぢいさんにさう云つて來ますわ」

お医者様は肩に手をかけて、やさしくなだめた。「よしよし、だっこ今ぢやなくね。今はもうしばらく樅の木の下にゐないで、又病氣になるからね。だっこ、もしもわたしが病氣になつて、ひきりぼつちになつた時、わたしのまごころに來てくれるかね？ わたしには、そんな時、世話をしてくれはつて

くれる人がゐてくれるのだよ、あてにしてもいいかね？」

「え、え、お迎ひによこして下さつたら、すぐその日に、飛んで行きますわ。わたし、先生はおぢいさんとおんなじ位、大好きなんですよ」  
それでもまだ、ハイディはしゃくり上げてゐた。

もう一度さよならをして、お醫者様は又下りて行つた。ハイディはちつと見送つて、お醫者様が、豆粒位に見えるまで、手を振つてゐた。お醫者様はその手を振つてゐるハイディの小さな姿を、目に輝く山々をもう一度見おさめながら、つぶやくのだった。

「山はい、からだにも心にも。仕合せを失つたものも、あそこではもう一度それを見出すことを教へられるのだからなあ」

#### 十八、デルフリ冬の

雪が小屋のまはりに高く積つて、窓は地面にすれすれになつて、戸口はすつかり隠れてしまつた。ペーテルは毎朝、雪掻きをしなければならなかつた。霜で雪が凍てついてゐない時には、窓から跳び出すと、柔い雪の中に肩まですつぱりさ埋れてしまふので、手や足や頭で蹴もかいて、やつと出て

來るのだった。するまお母さんが大きな箆を渡ししてくれるので、それで戸口までの路を一生懸命に掃へる。よほご氣を付けて雪を掻き分けておかないと、戸を開けた途端にさつと柔い雪の塊が家の中まで轉り込んで來たり、雪が凍てついてゐる時には氷の塀が出來て戸口を閉ざし、誰も出ることも入ることも出來なくなるのだった。こんな時こそペーテルには一等うれしい時で、窓からここにちこちこに固まつたすべつこい地面に飛び降りて、お母さんから小さな箆をわたしてもらふと、それに乗つて、一面に雪が積つて絶好の橇道になつた山道を、すき勝手に迂りながら、デルフリへさ下りて行くのだった。

おぢいさんも、もし山の上で冬を越してゐたら、きつと毎日こんなことをしなければならないのだつたが、今年の村の人達との約束通り、初雪が降り出すと、小屋を閉ぢてハイディと山羊をつれて、デルフリの昔自分の借りて住んでゐた教會のそばの古い家に暮らしてゐた。この家はもこ、えらい軍人の建てた家であるが、その後住む人もないままに、荒れるにまかせ、安い家賃で人に貸してゐたので、おぢいさんは息子のトビアスがまだ小さ

い頃、こゝを借りて住んでゐたのである。おぢいさんがゐらなくなつた後は又すつこ空き家で、今では雨が漏り風が吹き込んで、夜は蠟燭もつけておけない位で、冬などは凍え死にさうで、さても住めさうにもなかつたが、おぢいさんには修繕の心得があるので、秋のうちから借り入れてすつかり手入れをし、十月の中頃にハイデイと一緒に移つて來たのである。

家のうしろは崩れた塀に圍まれた空地になつてゐて、その上にアーチ形の窓がそびえ、そこから禮拜堂の圓屋根にかけて、ぎつしりミ葛の葉がからんでゐた。その次ぎが大きな廣間で、戸も何もなく、空地へ行き抜けになつてゐた。壁も屋根もほんの申し譯ほぎ残つてゐるきりで、二本の太い柱で支へてあるのでやつこ倒れずにすんでゐる有様である。おぢいさんはこゝに板仕切りをして、床に藁を敷き、山羊小舎にした。こゝから長い長い廊下がつゞき、途中割れ目や裂け目から空や野原やおもての通りが見えたりするが、つき當りに頑丈な樫の木の戸のついた少しも荒れない部屋がある。こゝだけは壁も腰板もそのまゝで、隅つこには天井までミゞきさうな大きなストーヴがあり、

その白い瓦には、青い色でいちめん繪が描いてあつた。木立ちにかこまれた古いお城に獵犬をつれた獵人のゐる繪や、しづかな湖の大きな樫の木陰で人が釣りをしてゐる繪なきがあつた。ストーヴのまはりに坐つて繪が見られるやうに、腰掛けが据えてあり、ハイデイもおぢいさんについてこの部屋に這入るなり、いちばんにこの繪が目について、腰掛けてながめた。ストーヴと壁の間には四枚の板がよせかけてあつた。ハイデイははじめ林檎でもかこつておくのかと思つたが、よく見ると、乾草を積み、シートを敷き、麻袋をかけた山の小屋でしてゐたのと同じ自分のベットだから、手を叩いてよろこんだ。

「まあ、おぢいさん、ここがわたしのお部屋なの？ すてきね！ だけき、おぢいさんはきこで寝るの？」

「お前はストーヴのそばでないさ凍えてしまふからな。わしの部屋も見に来てごらん」

ハイデイはおぢいさんのあみから飛びまはりながらついて行くミ、その隣の少しせまい部屋がそれだつた。も一つ隣の部屋を開けた時、ハイデイはびつくりして立ち止まつた。お臺所らしいのだ



けれぎ、こんなに廣いお臺所は、今迄一ぺんも見  
たこぎがなかつたので、こゝは荒れ方もひきかつ  
たので、おちいさんは手入れをするのに並大抵で  
はなかつた。あんまり澤山壁の穴を塞ぐのに新し  
い板を打ち付けたので、ちよつと見るこゝ、部屋  
のまはりにすらりこ小さな戸棚でも竝べたやうだつ  
た。古い大きな戸はねぢや釘をこつさり使つて、  
丈夫に打ちつけておいた。外には、こわれた塀や  
板戸に雜草が丈高く生ひ茂り、甲蟲やミカゲが無  
數に住んでゐたので、これは是非とも必要なこぎ  
だつた。

ハイデイはこの新しい住ひをひきく悦び、着い  
たあくる朝には、もう家ちうのこぎの隅までも勝手  
を覚え、ペーテルを案内しては、すみずみまで説  
明してやつた。

ハイデイはストーヴのそばの自分の隅つこで、  
ぐつすりこ眠つた。けれぎも、朝目が覺めた時は、  
まだ山の上にあるつもりで、すぐに飛び出して、  
縦の木があんなに音を立てないのは、雪が重たい  
のではないかしらこ、見に行かうとして、さてあ  
たりを見まはして、山の上の小屋ではなかつたこ  
ぎを思ひ出し、へんな重苦しい悲しい氣持になる

のだつた。でも、おちいさんが外で山羊の世話を  
してゐる聲や、山羊たちがハイデイに早く来てく  
れさせがむやうに啼く聲が聞えて来るこ、やつぱ  
りうちにあるたのだこいふ氣がして、安心して、大  
急ぎではね起きて、山羊のこころへ駆けつけるの  
だつた。

四日目の朝、ハイデイはおちいさんの顔を見る  
なり云つた。

「わたし、今日はおばあさんの所に行つてあげな  
きやならないわ。あんまり長いこぎ行かないこ、  
可哀さうだわ」

けれぎもおちいさんは賛成しなかつた。

「今日もあしたもまた駄目ぢや。山は大雪で、今  
も降りつづいてゐる。あの元氣者のペーテルでさ  
へ來られないのぢやから、お前のやうな小つちや  
い子は、雪に埋つまれてしまふぞ。埋つもれたが最  
後、探し出せなくなるから、凍てつくまでお待ち  
したら、堅い雪の上を歩いて行けるからな」

待つのはつらかつたけれぎ、でも日の經つのも  
わからない位、ハイデイは忙がしかつた。デルフ  
リの村の小學校へ、毎日、朝さおひるからこ通つ  
て熱心に勉強してゐたのである。ペーテルはしよ

つちう休むので、めつたに會はなかつた。先生はのんきな人で、時々、

「ペーテル君は今日もまた休んでゐるな。きつミ山の雪が深く出て來られないんだらうな」

「さいふだけだつた。そのくせ、その雪の山道も、學校がすんだ頃になるこ、雜作なく通れるやうになるこ見え、ペーテルは夕方にはよくハイディのころへ遊びに來るのだつた。」

やつミのころで、四五日後のある日、お日様が顔をのぞかせ、眞白な地面の上をキラキラと照らしたが、この白い地面は夏のお花ほぎにはお日様はすきでないこ見え、ぢきに又山のうしろへ引つ込んでしまつた。けれども晩には澄んだ大きなお月様が出て、夜さほし眞白な大雪原を照らし、あくる朝は山ぢうが一つの大きな水晶のやうにざらざらと閃めきわたつた。ペーテルはいつものやうに窓から飛び降りるこ、ふわりと雪の中に沈み込むこ思ひの外、堅い地面にこつんこつき當り、二三歩つるつるこ構のやうに足を這らせ、びつくりした。やつミ踏み止まり、足で地面を叩いて堅さを試し、踵で雪の表に穴をあげようこ力一杯踏ん張つて見たが、一こかけの氷をまかくこミが出来

なかつた。アルムの山ぢうが、鐵のやうに凍てついたのである。これこそペーテルの待ちのぞんでゐたこで、道が固まればハイディが歩いて登つて來られるのである。ペーテルは大急ぎで家へ駆け込み、お母さんのこさへてくれたお乳を一こ飲みにして、パンを一こ切れポケットに押し込むこ、

「學校へ行つて來るよ」

「おばあさんは

「それがよい、しつかり勉強しておいで」

こ力づけてくれた。

ペーテルは小さな構を引きすつて又窓から飛び降りて、見る間に山を這り下りた。稻妻のやうな早さでデリフリまで來たが、速さに押し流されてなかなか構が止まらず、無理に止めれば怪俄をするか構をいためるに決つてゐるので、そのまま少し先きまで行くこ、平らになつた所でやつミ構がひさりにに止まつた。マイエンフェルトのまだ少し先きまで來てしまつてゐるのである。ここから引き返すには随分時間がかかるから、さうせ學校は遅刻だこ肚をきめて、ゆつくりゆつくりのぼつて行くこ、デルフリに着いた時はハイディがもう學校から歸つておぢいさんこ御飯をたべてゐる

た。ペーテルは這入つて行き、今日は特別話があるので、部屋のまん中に突つ立つたまま、いきなり叫んだ。

「もう、ちゃんこあるんだぜ」

「ちゃんこある？ 一體何がぢやね。お前の話は、まるで戦争ぢやな、大將」

「霜がさ」

「あら、そしたらわたし、おばあさんここへ行くわ」

ハイディにはペーテルの云ふことがぢきにわかつて、うれしさうに云つた。

「だけき、そんなら何故學校へ來なかつたの？」

霜が凍てついてゐたのなら、橋で這つて來れたぢやないの」

やつて來られるのに學校をするけて休むなんて、以ての外だミハイディは詰るのだつた。

「橋が這りすぎて、遠くまで行つちやつたから、遅くなつたんだよ」

「脱走兵ぢやな。脱走兵はたしか、耳を引つ張られるのぢやつたな」

ペーテルは引つ張られは大變き、あわてて帽子をずらせて耳をかくした。ペーテルにはアルムを

ぢさんが一等こわいのである。

「大將が脱走なんぞしては、餘計恥づかしいな。もし山羊がいふこきを聞かずに、てんでに好き勝手に行つてしまつたら、お前はさうするかね」

「ひつばたいてやるさ」

ペーテルは言下に答へた。

「それなら、子供がそんな行儀のわるい山羊の眞似をして引つばたかれたら、お前はさう思ふね？」

「いい氣味だい」

「そし、そんならよく覺えておくのぢやぞ、今度もしお前が、するけて學校の前を橋で素通りなんぞしたら、山羊さんおなじに、あみでわしにうん

ミ引つばたかれるのぢやぞ」

ペーテルは、今やつこ、さつきからおぢいさんの訊いてゐたここの意味がわかり、お行儀のわるい山羊みたいな子供は、自分のこきを云はれてゐたのだこ氣が付くミ、自分がいつも山羊のお仕置きに使ふ鞭のやうなものが、ここかにありはしないかミ、急に恐る恐る部屋の隅つこの方をうかがふのだつた。だがおぢいさんは面白さうに云つた。

「まあこつちへ來て何かお上がり。それがすんだ

ら、ハイディを連れて行くのぢや。夕方又送つて来ておくれ。夕飯をご馳走するからな」

話が思ひもかけないことになつて、ペーテルはここにこしなから、早速ハイディの横にかけた。

ハイディはこれからおばあさんに逢ひに行くのだと思ふさ、うれしくて胸が一ぱいになり、もう一口も食べられなくなつて、自分のお皿のぢやがいもだの焼きチーズだのを、そつくりペーテルに押しやつた。おぢいさんはおぢいさんで、お皿に一ぱい入れてくれたので、ペーテルの前には御馳走が山ご積まれたが、ペーテルは更にひるむ氣色もなく、またたく間にすさまじい勢で平げて行つた。ハイディは戸棚からクララにもらつた温い外套を出して著て、頭巾もかぶつてすつかり用意をして、ペーテルの食べ終へるのを待ち、

「さあ、行きませうよ」

さ促した。道々ハイディはペーテルに、山羊がはじめて新しいおうちに引越して來た時、さても悲しさうにして、なんにも食べようさもしないで、頭を垂れ、啼き聲さへ立てなかつたので、おぢいさんにわけを訊ねるさ、それはハイディがフラックフルトへ行つたのさおなじなのだ、生まれて

初めて山を下りたのだから、さ云つたことを話し、

「ほんたうに、自分で味はつて見なくちや、その氣持はさてもわからないものよ」

さしみ身につまされて云つた。

ペーテルは何だかさても考へ込んでゐて、ハイディの話もろくろく聞いているなかつたが、家も間近になつた時、急に立ち止まつて、ぼつんさ云つた。

「アルムをぢいさんに引つぱたかれるよりやあ、學校へ行つた方がましだなあ」

ハイディもそのよい心掛けをはげましてやつた。家にはお母さんがひまりで編物をしてゐた。おばあさんは少し加減がわるくて、寒いので伏せつてゐるのだつた。ハイディが次ぎの部屋へ飛んで行くさ、おばあさんはうすい蒲團にくるまつて、その上からあの温い肩掛けをかけてねてゐた。

「やれ有難や」

おばあさんはハイディを見るさ叫んだ。この秋ぢう、おばあさんはハイディの姿が少しでも見えないさ、又フラックフルトへ連れて行かれたのではないかさひやひやしてゐるのだつた。フラック

フルトから見知らぬ紳士がハイディを訪ねて来たミペーテルに聞いてからは、その人がひきりで歸つてしまつたあさまでも、今に又ハイディを迎へによこすのではないか、心配でたまらなかつたのである。ハイディは寢臺のそばへ行き、

「おばあさん、ひきくわるいの？」  
 きたつねた。

「いいえ、ちよつと寒さがこたへただけなんだよ」

おばあさんはハイディの頭を撫でながら云つた。

「そんなら、暖くなつたら、ぢきによくなるわ」  
 「さうさ。もつと早くだつて快くなるよ。紡ぎものをしなくちやならないからね。今日だつて少ししようと思つただけれぎ、なあに、あしたは起きられるよ」

おばあさんはハイディがひきく心配してゐるのを見て、安心させようさ、一生懸命に云つた。ハイディはこれですつかり安心し、今度はしげしげとおばあさんの様子をながめて、

「フランクフルトちや肩掛けは外へ出掛ける時にかけるのよ。おばあさんは、ねるまきに著るも

のだと思つて？」

「さうぢやないんだれぎもね、お蒲團がうすいから、これをかけるま温いのでね」

「だけぎ、おばあさんの寢臺は、頭の方が低くなつててよ、あべこべだわ」

「それもわかつてるのだけれぎ」

おばあさんは少しでも頭を高くしようとして、板のやうにうすい枕の下に手をすけながら云つた。

「長く使つてるま、枕がだんくへしやげてしまつたのだよ」

「まあ、それぢやクララに頼んでフランクフルトのわたしの寢臺を持つて來ればよかつたわね。三つも枕が積み重ねてあるのよ。わたし、高くつて寢られやしないから、頭をはづしてみたり、でもお行儀がわるいかと思つて又のつけたりしてたのよ。おばあさんは、あんなの好き？」

# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三  
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

## 日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タルラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
  - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
  - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
  - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
  - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
  - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

### 價定

ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳圓拾圓金拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	一等面一頁一頁以下
拾貳冊送	金四圓貳拾錢	金拾圓(御斷り)
拾貳冊送	金四圓貳拾錢	神田區駿河臺ノ三品田
拾貳冊送	金四圓貳拾錢	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
 昭和十四年十月二十八日印刷納本  
 昭和十四年十一月一日發行  
 幼兒の教育 第三十九卷 第十一號

### 不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三  
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷者 柴山 則常  
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷所 會社 杏林 舍

### 發行所

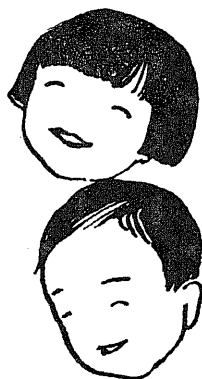
日本幼稚園協會  
 振替口座東京一七二六六番

### 注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます(郵券代用の場合は總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可  
(毎月一回) 發行

昭和十四年十月二十八日印刷納本  
昭和十四年十一月一日發行



うれしい降誕祭

たのしいお正月

この季節の手技材料がいろいろ取揃へました。  
拵へて飾りませう。兵隊さんにもあげませう。

- ◇ストッキング用織紙
- ◇星(金銀の美しい星)
- ◇柊の葉
- ◇お誕生祝の鯛
- ◇後藤連繫紙
- ◇國旗さ日の丸、提灯さ日の丸
- ◇カレンダー掛星形臺紙
- ◇羽子板材料
- ◇獨樂用材料
- ◇モモトラウカルタ
- ◇健康カルタ(大阪・東京)

外に後藤先生案新手法用材料各種

各	一	五	一	一	一	一	一	一	一	五
組	組	個	本	枚	箱	箱	枚	箱	箱	組
二	二	九	一	五	二	三	二	四	四	一、
五	五	〇		五	五	五		〇	五	四
錢	錢	錢	圓	錢	錢	錢	圓	錢	錢	錢

定價參拾五錢

# 食館レベレフ 社會株式

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社本  
番七二八三(33)話電・五町後備・區東・阪大 店支  
番八三九一(24)話電